2021

国際自動車整備科 シラバス

学校法人京都中央学院

〈専〉YIC京都工科自動車大学校

シラバスとは

シラバスとは講義概要であり授業全体の計画書のことです。授業の目標・内容・参考図書・成績評価の方法などが記され、皆さんが授業内や授業外で学修を行うための指針を示すものです。

教員は、この指針に従って授業を行うことになります。 したがってシラバスは授業計画を学生と教員との間で共有する、「契約書」に近い位置づけのものです。シラバスに記載された目標を達成するために、教員は授業を通して学生である皆さんに知識と技術を習得させる義務を負います。逆に皆さんは授業に出席する義務を負うことになります。

また広い意味では、本校が地域社会に対して本校の教育の質を担保するものでもあります。

実際に授業が行われるにあたって、学生や教員があらかじめ準備したり、従うべき事項等を共有する文書となります。授業で行われる内容があらかじめ記載されていますので、学生は授業に臨む際に前もって準備を行うことができますし、記載されている評価方法に向けての学修などを行うこともできます。

シラバスを作成する過程で、教員が自らの行う授業の内容、評価方法などの具体的構造を見直すことができ、自分の授業を見直す良い機会になります。
皆さんは、このシラバスを活用して、悔いのない学生生活を送っていただくようお願いします。

別表2

国際自動車整備科　教育課程

	区分		履修科目名	1年		2年		3年		合計	
				単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
国土交通省履修基準	必修科目（講義）	自動車工学	エンジン構造Ⅰ	1	32					1	32
			エンジン構造Ⅱ			1	32			1	32
			シャシ構造Ⅰ	1	32					1	32
			シャシ構造Ⅱ			1	32			1	32
			電気工学Ⅰ	1	32					1	32
			電気工学Ⅱ			1	32			1	32
			自動車工学Ⅰ	1	32					1	32
			自動車工学Ⅱ			1	32			1	32
			自動車工学Ⅲ					1	80	1	80
			オートメーション基礎	1	32					1	32
			ＩＴ・マテリアル	1	32					1	32
			新エネルギー工学	1	32					1	32
		自動車整備	エンジン整備Ⅰ			1	32			1	32
			エンジン整備Ⅱ					1	32	1	32
			シャシ整備Ⅰ			1	32			1	32
			シャシ整備Ⅱ					1	32	1	32
			電装整備Ⅰ			1	32			1	32
			電装整備Ⅱ					1	32	1	32
			故障探究					1	32	1	32
		機器の構造・取扱い	検査機器					1	38	1	38
		自動車検査	検査法					1	32	1	32
		自動車の整備に関する法規	法規					1	32	1	32
			必修科目（講義）小計	7	224	7	224	8	310	22	758
	必修科目（実習）	工作作業	工作作業実習	1	26					1	26
		測定作業	測定作業実習	2	54					2	54
		自動車整備作業	エンジン実習Ⅰ	2	64					2	64
			エンジン実習Ⅱ			4	128			4	128
			エンジン実習Ⅲ					4	128	4	128
			シャシ実習Ⅰ	2	64					2	64
			シャシ実習Ⅱ			4	128			4	128
			シャシ実習Ⅲ					4	128	4	128
			電装実習Ⅰ	2	64					2	64
			電装実習Ⅱ			4	128			4	128
			電装実習Ⅲ					4	128	4	128
			総合実習Ⅰ	6	236					6	236
			総合実習Ⅱ			4	128			4	128
			総合実習Ⅲ					2	64	2	64
			企業技術講習			2	60			2	60
		自動車検査作業	検査作業実習					2	64	2	64
			必修科目（実習）小計	15	508	18	572	16	512	49	1,592
一般教養科目	必修		日本語	4	128	2	64			6	192
			キャリアデザインⅠ	1	32					1	32
			キャリアデザインⅡ			1	32			1	32
			キャリアデザインⅢ					1	32	1	32
	選択科目		損害保険募集人			1	32			1	32
			企業研究	1	32					1	32
			企業研修					1	32	1	32
			ビジネス能力					1	32	1	32
			ビジネス文章力					1	32	1	32
			コンピュータ	1	32					1	32
			プレゼンテーション	1	32					1	32
			論理的思考力					1	32	1	32
			イベントプロデュースⅠ	1	32					1	32
			イベントプロデュースⅡ					1	32	1	32
			ボランティア活動Ⅰ	1	32					1	32
			ボランティア活動Ⅱ					1	32	1	32
	必修・選択科目小計			10	320	4	128	7	224	21	672
	合計			32	1,052	29	924	31	1,046	92	3,022

・単位：90分×16週の座学（授業）または実習をもって1単位とする。ただし校外実習などこれによりがたい場合は別途換算する。

・科目履修（単位）認定の要件：出席率90％以上および、単位認定試験60点以上、さらに目標認定がある科目は目標の達成。

・卒業の要件：必修科目（国土交通省履修基準）71単位および、一般教養科目の必修9単位以上を含む、合計80単位以上の履修。

・但し、上記の単位を取得した場合であっても、別途国土交通省が定める必要時間数を履修していない場合は、実技試験の免除及び実務経験の短縮の措置が受けられない。

科目名	エンジン構造Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	ガソリン・エンジンに関する基礎知識（エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など）を学習し、理解する。				
授業の一般目標	３級自動車ガソリン・エンジンの国家試験に合格できるレベルの基礎知識を習得する。				
受講条件	出席率90％以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	３級自動車ガソリン・エンジン　ガソリン・エンジン構造				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	ガソリン・エンジンの部品の名称や、基本的な構造・作動、整備に必要な計算式等を理解することが出来る。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70％未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	第1章　総論	ガソリン・エンジンの歴史や概要を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第2回	第1章　総論	ガソリン・エンジンの種類、構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第3回	第2章　エンジン本体	シリンダ、ピストン、クランクシャフトなどを理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第4回	第2章　エンジン本体	フライホイール、カムシャフト、やバルブ機構の部品名称や構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第5回	第2章　エンジン本体	バルブタイミングダイヤグラムの作り方や、トルク、排気量等の計算を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第6回	第3章　潤滑装置	エンジン・オイルの循環経路や、トロコイド式オイル・ポンプの各部品の名称、構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第7回	第3章　潤滑装置	オイル・フィルタやオイル・パン、ギヤ式オイル・ポンプの各部品の構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第8回	第4章　冷却装置	冷却水の循環経路や、ウォータ・ポンプ、サーモスタットなどの名称・構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第9回	第4章　冷却装置	冷却水の濃度と凍結温度の関係や、ラジエータ、ファンの部品名称・構造を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第10回	小テスト	第1章～第4章までの範囲で小テストと解説を実施	
第11回	第5章　燃料装置	インジェクタの名称や、構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第12回	第5章　燃料装置	フューエル・ポンプの部品名称や構造・作動、整備上の全般的な注意事項などを理解し確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第13回	第6章　吸排気装置	吸気系統及び排気系統の各部品の名称や、構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第14回	第6章　吸排気装置	スロットル・バルブの名称や、構造・作動を理解し、確認テストで60％以上を正解することが出来るようになる。	
第15回	小テスト	第5章～第6章までの範囲で小テストと解説を実施	
第16回	試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	森・喜多・三宅・小林	実務経験紹介	

科目名	エンジン構造Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	ジーゼル・エンジンとは何か、ガソリン・エンジンとの構造や作動の違い、共通点等を学習する。				
授業の一般目標	3級自動車ジーゼル・エンジンの国家試験に合格できるレベルの基礎知識を習得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	3級自動車ジーゼル・エンジン				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. ジーゼル・エンジンの部品の名称や、基本的な構造・作動、整備に必要な計算式等を理解することが出来る。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	第1章　総論	ジーゼル・エンジンの歴史や概要を理解し、確認テストで60%以上正解することが出来るようになる。	
第2回	第1章　総論	前期に学習したガソリン・エンジンとの構造・作動の違いを理解し、確認テストで60%以上正解することが出来るようになる。	
第3回	第2章　エンジン本体	シリンダライナや、ピストン・リングの形状、燃焼室の形状などを理解し、確認テストで60%以上正解することが出来るようになる。	
第4回	第2章　エンジン本体	バルブ機構の確認やエンジン各部の測定方法、各部のクリアランスが過大または過小の場合エンジンに起こる不具合などを理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第5回	第3章　潤滑装置	トロコイド式、ギヤ式各オイル・ポンプの違いの確認とオイルポンプの測定方法を理解し、確認テストで60%以上正解することが出来るようになる。	
第6回	第3章　潤滑装置	エンジン・オイルの性状や、ジーゼル・エンジン用のエンジン・オイルに求められている性能を理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来る。	
第7回	第4章　冷却装置	冷却装置の名称や、構造・作動の確認をし確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第8回	第4章　冷却装置	冷却系統の点検方法や、冷却水の濃度の計算方法を理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第9回	小テスト	第1章～第4章までの範囲で小テストと解説を実施	
第10回	第5章　燃料装置	列型インジェクション・ポンプの各部品の名称、構造・作動を理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第11回	第5章　燃料装置	分配型インジェクション・ポンプの各部品の名称、構造・作動、列型インジェクション・ポンプとの違いを理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第12回	第5章　燃料装置	コモンレール式高圧燃料噴射装置の各部品の名称、構造・作動を理解し確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第13回	第5章　燃料装置	インジェクション・ノズルの種類や形状、各部の名称や構造・作動を理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第14回	第6章　吸排気装置	吸排気装置の確認とエキゾースト・ブレーキの構造を理解し、確認テストにて60%以上正解することが出来るようになる。	
第15回	小テスト	第5章～第6章までの範囲で小テストと解説を実施	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	森・喜多・三宅・小林	実務経験紹介	

科目名	シャシ構造Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	シャシの内容はエンジンルーム以外の構成部品であり、幅広い部品それぞれの作動・構造を理解する必要ある動力伝達装置・緩衝装置・ステアリング装置・ブレーキ装置・タイヤ・ホイールの走行装置・灯火装置等				
授業の一般目標	構成部品・構造を理解し、作動・機能を第三者に説明することができる				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	3級自動車シャシ				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. 3級自動車整備士のシャシ分野について、国家試験合格レベルの知識 習得 2. 整備士の役割・社会責任・安全作業について学ぶ				
☐ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的なシャシの構造を理解する。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	シャシ概要	自動車ノシャシについて、基本的な部品の配置と名称と機能を説明できるようになる。	
第2回	第2章　動力伝達装置	自動車の駆動方式の違いについて理解し、説明できるようになる。	
第3回	第2章　動力伝達装置	クラッチについて、役割を理解し各部の名称を説明できるようになる。	
第4回	第2章　動力伝達装置	クラッチの作動について説明できるようになる。	
第5回	第2章　動力伝達装置	マニュアル・トランスミッションについて、役割を理解し各部の名称を説明できるようになる。	
第6回	第2章　動力伝達装置	マニュアル・トランスミッションの作動について説明できるようになる。	
第7回	第2章　動力伝達装置	プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイントについて、役割を理解し各部の名称を説明できるようになる。	
第8回	第2章　動力伝達装置	プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイントの作動について説明できるようになる。	
第9回	第2章　動力伝達装置	ファイナル・ギヤ、ディファレンシャルについて、役割を理解し各部の名称を説明できるようになる。	
第10回	第2章　動力伝達装置	ファイナル・ギヤ、ディファレンシャルの作動について説明できるようになる。	
第11回	第3章　アクスル及びサスペンション	アクスル、及びサスペンションについて、種類の違いと名称を説明できるようになる。	
第12回	第3章　アクスル及びサスペンション	サスペンションの種類による構造の違いを説明できるようになる。（金属スプリング）	
第13回	第3章　アクスル及びサスペンション	サスペンションの種類による構造の違いを説明できるようになる。（エアスプリング）	
第14回	第3章　アクスル及びサスペンション	ショック・アブソーバの役割について、役割を理解し各部の名称を説明できるようになる。	
第15回	第3章　アクスル及びサスペンション	ショック・アブソーバの作動について説明できるようになる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田　安延	実務経験紹介	

科目名	シャシ構造Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。				
授業の一般目標	1. 自動車シャシの部品や構成及び作動の理解を深める。 2. 自動車全体の中での関連した部品の作動についての理解を深める。 3. 整備士の社会責任・職業倫理への理解を深める。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	3級自動車シャシ				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. 3級シャシ自動車整備士、国家試験合格レベルの知識習得を目指す。				
☐ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	第7章 ブレーキ装置	ブレーキの概要およびマスタ・シリンダの構造を理解し説明できる。	P135～P139
第2回	第7章 ブレーキ装置	ドラム・ブレーキの種類と構造の違いを理解し説明できる。	P139～P141
第3回	第7章 ブレーキ装置	ブレーキシュー／ホイール・シリンダ／オート・アジャスタの構造を理解し説明できる。	P142～P144
第4回	第7章 ブレーキ装置	ディスク・ブレーキの構造、自動調整装置の作用を理解し説明できる。	P144～P147
第5回	第7章 ブレーキ装置	ブレーキ液／ブレーキ安全装置（プロポーショニング・バルブ、LSPV）の構造を理解し、作動を説明できる。	P148～P152
第6回	第7章 ブレーキ装置	真空式制動倍力装置の構造を理解し作動を説明できる。	P152～P155
第7回	第7章 ブレーキ装置	パーキング・ブレーキ機構の種類、構造を理解し作動を説明できる。	P156～P160
第8回	第7章 ブレーキ装置	ブレーキ装置の整備方法について理解する。	P160～P164
第9回	第4章 ステアリング装置	ステアリング装置の概要、操作機構について理解し説明できる。	P83～P88
第10回	第4章 ステアリング装置	ステアリング・ギヤ機構、ステアリング・リンク機構について理解し説明できる。	P88～P92
第11回	第4章 ステアリング装置	油圧式、電動式パワー・ステアリングについて構造を理解し作動を説明できる。	P92～P97
第12回	第4章 ステアリング装置	ステアリング装置の整備・点検方法について理解する。	P97～P105
第13回	第5章 ホイール及びタイヤ	自動車用ホイールの構造、取り付け方法について理解し説明できる。	P107～P121
第14回	第5章 ホイール及びタイヤ	タイヤの構造、呼び、ホイールバランスの仕組みを理解し説明できる。	P107～P121
第15回	第5章 ホイール及びタイヤ	ホイール・アライメントの各要素とその役目を理解し、測定・調整方法を理解する。	P123～P133
第16回	期末試験	期末試験	P83～P164

成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	高松 久登	実務経験紹介	

科目名	電気工学Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係（計算含む）、 電磁石・電磁誘導、 半導体、 バッテリ、始動装置、 充電装置、 点火装置、 灯火装置、 計器類、 冷暖房装置				
授業の一般目標	基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車ジーゼルエンジン、三級自動車シャシの各科目において、三級の自動車整備技能登録試験に合格するレベルまでの電装品の知識を習得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車シャシ、三級自動車ジーゼルエンジン　電装品構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 2. 電装授業の基礎となる電気の基礎知識を習得する。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行う。確認試験にて70%未満のものは補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	電子、静電気、導体、不導体、半導体	目では見えない電気が流れるとは、どのようなことかを理解し、電気を流す物質と流さない物質を判別できるようになる。	
第2回	電流、電圧、抵抗、直流と交流、電流の三作用	電圧と電流の違い、交流と直流の違いが説明できるようになる。 また、電流が流れることによって起こる現象が言えるようになる。	
第3回	合成抵抗の計算方法	抵抗の接続方法によって合成抵抗が変化する理由を理解し、回路の合成抵抗の計算ができるようになる。	
第4回	オームの法則、 キルヒホッフの法則	電気回路の各箇所の電圧・電流・抵抗値が計算によって答えられるようになる。	
第5回	直列及び並列接続時における電気の関係	直列接続時と並列接続時での電圧・電流値の違いがなぜ起こるのか、また各接続方法の長所と短所が説明できるようになる。	
第6回	磁気、電流による磁界、コイルについて	永久磁石と電磁石の違いを理解し、コイルに電流を流すとなぜ磁力が発生するのかを説明できるようになる。	
第7回	右手親指の法則、フレミングの法則	電流の流れる向きを見て、磁力の極性が答えられるようになる。	
第8回	自己誘導作用と相互誘導作用	モータ、発電機、点火装置などの原理となる自己誘導作用と相互誘導作用とは何かを説明ができるようになる。	
第9回	半導体	半導体の特性を理解し、各半導体の使用方法が答えられるようになる。 ダイオード、ツェナダイオード、発光ダイオード、ホトダイオード、トランジスタ、サーミスタ、IC	
第10回	バッテリの概要、起電原理	自動車用鉛バッテリの仕組みを理解し、起電の原理が説明できるようになる。	
第11回	電解液比重、起電力、容量、自己放電	放電終止電圧とは何かを理解し、容量の計算ができるようになる。 また、自己放電の起こる原理が説明できるようになる。	
第12回	バッテリの保守整備、充電及び救援方法	バッテリの保守点検方法を理解し、充電及びバッテリ上がりの車両に対して救援ができるようになる。	
第13回	始動装置の概要	始動装置の種類と、内部の各部品の役目が説明できるようになる。	
第14回	始動装置の概要	モータが回転する原理とマグネットスイッチの作動が説明できるようになる。	
第15回	始動装置の点検整備	スタータ脱着時の注意事項が言えるようになる。 単体のスタータが点検できるようになる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	山口　道夫	実務経験紹介	

科目名	電気工学Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係（計算含む）、 電磁石・電磁誘導、 半導体、 バッテリ、 始動装置、 充電装置、 点火装置、 灯火装置、 計器類、 冷暖房装置				
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 二年生の電装授業の基礎となる電気の基礎知識を習得する。				
受講条件	出席率90％以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車ジーゼルエンジン、三級自動車シャシ				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. 国家試験三級自動車ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、シャシ合格レベル（電装関係）
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について配線図の読み取りを身に付ける。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，整備技術を身に付ける。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	充電装置の概要	充電装置の内部の各部品の役目と発電の原理が説明できるようになる。	
第2回	充電装置の構造	ダイオードによる整流と、ボルテージレギュレータによる発生電圧の制御が説明できるようになる。	
第3回	充電装置の点検整備	オルタネータ脱着時の注意事項が言えるようになる。充電装置の点検ができるようになる。	
第4回	点火装置（イグニションコイル）	イグニションコイルの種類と特性を理解し、高電圧の発生原理が説明できるようになる。	
第5回	点火装置（点火タイミング）	点火タイミングの重要性を理解し、進角する時と遅角する時のエンジンの状態が答えられるようになる。	
第6回	点火装置（スパークプラグ、ハイテンションコード）	スパークプラグの種類とその特性が説明できるようになる。	
第7回	点火装置（点検整備）	イグニションコイル、ハイテンションコード、スパークプラグの点検ができ、スパークプラグの状態から適切な熱価の選択ができるようになる。	
第8回	灯火装置の概要	車両の各灯火装置の役目が答えられるようになる。バルブの種類を理解し、使用されているバルブの選択ができるようになる。	
第9回	灯火装置の作動	各灯火の作動を理解し、特にディマスイッチ及びライトコントロールスイッチの回路で電気の流れが説明できるようになる。	
第10回	灯火装置の作動（前照灯）	2灯式と4灯式の違いを理解し、ヘッドライトの光軸調整の手順が説明できるようになる。	
第11回	ヒューズ（ヒュージブルリンク）	切れたヒューズの状態からどのくらいの過電流が流れたかが判断でき、その後の対処方法が答えられるようになる。	
第12回	計器類	バイメタル式と交差コイル式及び燃料残量警告灯の作動原理が説明できるようになる。	
第13回	ホーン、ワイパ	ワイパが定位置で停止する原理が説明できるようになる。	
第14回	暖冷房装置、配線	冷たい風や暖かい風が出てくる原理が説明できるようになる。CAN通信によるメリットが答えられるようになる。	
第15回	予熱装置	ジーゼルエンジンにはなぜ必要かを理解し、自己温度制御型グロープラグの作動を説明できるようになる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田　安延	実務経験紹介	

科目名	自動車工学Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する				
授業の一般目標	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識、整備するための基礎、基本を理解する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車工学				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 内燃機関の基礎知識の習得　2. シャシ関係各装置の構造、機能、作動を習得　3. 三級二輪自動車整備士登録試験の合格ライン				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	自動車の概要	定義・歴史自動車の分類を説明出来るようになる。	
第2回	自動車の構造	自動車の構成・エンジンの原理・作動・構造を説明出来るようになる。	
第3回	ガソリンエンジンの構造	エンジン本体・潤滑装置・冷却装置について、作動・構造を説明出来るようになる。	
第4回	ガソリンエンジンの構造	燃料装置・吸排気装置について、作動・構造を説明出来るようになる。	
第5回	ガソリンエンジンの構造	ガソリンエンジンにおいて、必要な電気を常に生み出す装置について、作動・構造を説明出来るようになる。	
第6回	ジーゼルエンジン	ジーゼルエンジンの概要と、各部品の構造・作動について、作動・構造を説明出来るようになる。	
第7回	動力伝達装置	概要・クラッチ・トランスミッションについて、種類・構造を説明出来るようになる。	
第8回	動力伝達装置	プロペラシャフトとユニバーサル・ジョイントおよびディファレンシャルについて、種類・構造を説明出来るようになる。	
第9回	動力伝達装置	アクスルおよびサスペンションの構造・作動について、種類・構造を説明出来るようになる。	
第10回	確認試験	小テスト	
第11回	ステアリング装置（ホイールとタイヤ）	車両が向きを変えるための装置について、各方式の構造の概要説明が出来るようになる。タイヤの構造や、取り付ける向きの重要性が説明出来るようになる。	
第12回	ブレーキ装置（フレームとボデー）	車両が安全に止まるための装置についてと、車両を構成する骨格の種類とその特徴を説明出来るようになる。	
第13回	灯火装置・計器及び警報装置	灯火装置や計器など、自動車が安全に走行するためには、各種の装置が必要であることを理解し、説明出来るようになる。	
第14回	自動車の材料	自動車の材料として最も多く用いられている鉄鋼とその他の非鉄金属について理解し、自動車各部に要求される性質を説明出来るようになる。	
第15回	自動車の材料	タイヤやガラス・プラスチックなどの部品の特性や種類を理解し、自動車各部に要求される性質を説明出来るようになる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	喜多・三宅・小林 （補助教員　近藤　太一）	実務経験紹介	

科目名	自動車工学Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する				
授業の一般目標	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識、整備するための基礎、基本を理解する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車工学				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. 内燃機関の基礎知識の習得　2. シャシ関係各装置の構造、機能、作動を習得　3. 三級二輪自動車整備士登録試験の合格ライン				
☐ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	燃料	燃料に求められる性質、各種潤滑剤について性質を理解し、説明出来るようになる。	
第2回	熱について	熱の伝導、エネルギーについて、説明出来るようになる。	
第3回	燃焼について・力について	燃焼と力の発生を説明出来るようになる。	
第4回	力の計算（摩擦力・偶力・軸トルク）	力と、質量、トルクとモーメント計算について、説明出来るようになる。	
第5回	重心	重心の概念を理解する。前後の重心の位置関係を、計算で求めることが出来るようになる。	
第6回	速度	物体の速度や加速度の計算を理解することで、車の速度や加速度、エンジンの回転速度等の計算が出来るようになる。	
第7回	仕事と仕事率	仕事と仕事率の概念を理解することで、仕事と仕事率の計算が出来るようになる。	
第8回	圧力と応力	圧力の概念(パスカルの原理)を理解することで、油圧式ブレーキなどの倍力作用を計算出来るようになる。	
第9回	確認試験	小テスト	
第10回	電気と磁気	電気と磁気の特性を理解することで、モーターと発電機の作動原理を説明で出来るようになる。	
第11回	電流と電圧	電流と電圧の関係を理解することで、電気回路の基礎的な計算が出来るようになる。	
第12回	電力と電力量	電力と電力量の関係を理解することで、自動車の充電装置やバッテリとアクセサリの電力消費を検討することが出来るようになる。	
第13回	導体・不導体と半導体	導体・不導体および半導体の特性を知ることで、自動車に用いられる各種センサなどに用いられる部品を性質を説明出来るようになる。	
第14回	自動車の諸元1	自動車の諸元に表記される各種数値の意味を理解し、排気量と圧縮比の計算が出来るようになる。	
第15回	自動車の諸元2 車両質量と自動車の抵抗・駆動力	自動車の車両質量の意味と車両にかかる各種抵抗・駆動力や燃費の計算が出来るようになる。	
第16回	期末試験	後期期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	清水・喜多・三宅・小林	実務経験紹介	

科目名	自動車工学Ⅲ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車を構成しているネジや歯車などの“部品の部品”や、ガソリンやオイルなどの性質、それと、車の作動を理解するために必要な、基本的な原理・法則や、その計算方法等について解説します。				
授業の一般目標	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車工学				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. 自動車に用いられている“部品の部品”の概要造及び自動車の作動や諸元に関係する基本的な原理・法則とその計算方法に触れること。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	燃料	ガソリンや軽油、LPガスとは何か。燃料に求められる性質が、ガソリンと軽油では違うことを理解するほか、各種潤滑剤についても要求される性質が異なることを理解する。	
第2回	熱について	暖機運転が必要な理由の一つが、この授業で分かります。	
第3回	燃焼について・力について	エンジンはガソリンや軽油等を燃やし、力に変えている。 その2つについて概説を行う。	
第4回	力の計算 （摩擦力・偶力・軸トルク）	力と、質量。トルクと、モーメント。計算に使う概念を中心に解説します。	
第5回	重心	重心の概念を理解することで、転倒しにくい車にする方法を説明できるようになる。 また、前後の重心の位置関係を、計算で求めることができるようになる。	
第6回	速度	物体の速度や加速度の計算を理解することで、車の速度や加速度、エンジンの回転速度等の計算ができるようになる。	
第7回	仕事と仕事率	仕事と仕事率の概念を理解することで、仕事と仕事率の計算ができるようになる。	
第8回	圧力と応力	圧力の概念（パスカルの原理） を理解することで、油圧式ブレーキなどの倍力作用を計算できるようになる	
第9回	電気と磁気	電気と磁気の特性を理解することで、モーターと発電機の作動原理を説明できるようになる。	
第10回	電流と電圧	電流と電圧の関係を理解することで、電気回路の基礎的な計算ができるようになる。	
第11回	電力と電力量	電力と電力量の関係を理解することで、自動車の充電装置やバッテリとアクセサリの電力消費を検討することができるようになる	
第12回	導体・不導体と半導体	導体・不導体および半導体の特性を知ることで、自動車に用いられる各種センサなどに用いられる部品を性質を説明できるようになる。	
第13回	自動車の諸元１ 寸法・排気量と圧縮比	自動車の諸元に表記される各種数値の意味を理解し、計算ができるようになる	
第14回	自動車の諸元２ 車両質量と自動車の抵抗・駆動力	自動車の車両質量の意味と車両にかかる各種抵抗・駆動力や燃費の計算ができるようになる。	
第15回	まとめ	これまでの授業の復習を実施	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	高松・喜多・小林・岡田	実務経験紹介	

科目名	オートメーション基礎	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動運転や自動ブレーキなどの日々進化を続ける最新技術に対して、各メーカーの考え方や技術を理解する。オートメーション化に使用されているセンサやECUの制御、センサの調整方法などを理解し、自動車整備士に必要な知識を学習する。				
授業の一般目標	１、整備士に必要な自動運転、自動ブレーキの知識を身につける。 ２、センサやECUについての基本知識を身に付け、整備方法を学習する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）					

授業の到達目標

☐ 知識・理解の観点	1、自動運転の基本が理解できること。 2、自動ブレーキの基本が理解できること。 3、オートメーションについての幅広い内容が理解できること。
☐ 思考・判断の観点	1、自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
☐ 関心・意欲の観点	1、進化する最新技術に関心を広げ、問題意識を高めることができる。
☐ 態度の観点	1、自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
☐ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

各授業で行う確認試験にて60%以上正解する事。理解不十分と判断した者に対しては、放課後に勉強会を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	概要	オートメーションについての幅広い内容を理解し説明できるようになる。	
第2回	自動ブレーキシステム	自動ブレーキに関する考え方や、関わる法律を理解し説明できるようになる。	
第3回	自動ブレーキシステム	各メーカーの取り組み、違いについて理解し説明できるようになる。	
第4回	自動ブレーキシステム	自動ブレーキに関わるセンサの種類、構造、作動を理解し説明できるようになる。	
第5回	自動ブレーキシステム	自動ブレーキに関わるセンサの制御を理解し説明できるようになる。	
第6回	自動ブレーキシステム	安心安全に関わる、その他のシステムについて理解し説明できるようになる。	
第7回	自動ブレーキシステム	各センサの初期化、調整方法について理解し説明できるようになる。	
第8回	確認試験	小テストを行い、解答、解説を実施。	
第9回	自動運転システム	自動運転に関する、考え方や技術について理解し説明できるようになる。	
第10回	自動運転システム	自動運転に対する各メーカーの取り組み、違いについて理解し説明できるようになる。	
第11回	自動運転システム	自動運転に関わるセンサの種類、構造、作動を理解し説明できるようになる。	
第12回	自動運転システム	走る、曲がる、止まるを制御する技術について理解し説明できるようになる。	
第13回	自動運転システム	走行環境の認知、判断技術について理解し説明できるようになる。	
第14回	自動運転システム	航法に関する認知、判断技術について理解し説明できるようになる。	
第15回	自動運転システム	乗用車以外の自動運転技術について理解し説明できるようになる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	村田　拳人	実務経験紹介	

科目名	IT・マテリアル	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	2万点以上に上る自動車部品に使用される、金属・非鉄金属・樹脂・ガラスなど多くの原料の材質、製造方法、用途などを理解する。 また、PCを使用しWordとExcelについても併せて学び、CADなどPCを使用した製図の基盤とする。				
授業の一般目標	自動車に使用されている部品の材料について理解する事により、より的確な自動車整備に繋げる。 サービスマニュアル等の図面の読み解きに加えて、Word文章やExcelの活用が出来る様になる。				
受講条件	出席率90％以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	自動車材料・製図、30時間でマスターWord&Excel、基礎自動車工学				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1．自動車部品の概要（部品名称及び材料の知識学習）を第3者に説明が出来る。 2、製図の基本的なことを説明が出来る。 3．PCを使用しWordとExcelが使える。				
☐ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70％未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	自動車の材料（構成と動向）	現代自動車と次世代自動車に於ける、材料と環境への配慮、材料の性質が説明出来るようになる。	
第2回	自動車の材料（金属材料の性質）	「金属材料に必要な性質と試験法」 金属の通性を導入に、自動車材料として必要な性質と試験・検査法の種類が説明が出来ようになる。	
第3回	自動車の材料（鉄鋼材料）	「鉄鋼材料、鋼と鋼、炭素鋼」 自動車等に使用される鋼と鋼に於いて、その製法と用途について説明が出来ようになる。	
第4回	自動車の材料（鉄鋼材料）	「鉄鋼材料、鋼板と特殊鋼」 自動車等に使用される鋼板と特殊鋼に於いて、その製法と用途について説明が出来ようになる。	
第5回	自動車の材料（鉄鋼材料）	「鉄鋼材料、その他の鋼」 自動車等に使用されるその他の鋼、鋳鉄に於いて、その製法と用途について説明が出来ようになる。	
第6回	自動車の材料（非鉄金属材料）	「各種合金と用途」 アルミニウムや銅・亜鉛を代表とする非鉄金属の性質を学び、その性質と使用例について説明出来ようになる。	
第7回	自動車の材料（非金属材料）	「非金属材料の種類と用途」 プラスチック、塗料、ゴム、ガラス、セラミック、繊維等について学び、性質と使用例について説明出来ようになる。	
第8回	確認試験	小テスト	
第9回	PC基礎	画面の構成、メールアカウントの作成、ログイン方法が出来るようになる。	
第10回	PC基礎	文字入力の基礎、読みのわからない漢字の入力が出来るようになる。	
第11回	Word（入門）	文字の入力、文章の入力に加えて人名や住所など辞書の活用が出来る様になる。	
第12回	Word（文章の作成）	文の入力に加えて、文章の保存と読み込み、印刷レイアウトと印刷が出来る様になる。	
第13回	Word（活用）	Wordの編集機能を使いこなし、表の編集やビジュアル文書も作成出来る様になる。	
第14回	Excel（入門）	データ入力の基礎を学び、基本的なワークシートの作成・編集が出来る様になる。	
第15回	Excel（グラフ）	Excelを使用し、グラフを作成する事に加えて、グラフの設定の変更が出来る様になる。	
第16回	Excel（活用）	オートSUMボタンの活用を理解し、関数の挿入やデータベース機能も使える様になる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）： 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）： 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）： 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	高松　久登・小島　敬子	実務経験紹介	

科目名	新エネルギー工学	単位数	1	学科	自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	熱機関に使用される燃料や油脂について学習し、2級ガソリン自動車及び2級ジーゼル自動車に合格できる知識を修得する。 未来の燃料についての知識を修得する。				
授業の一般目標	・燃料、油脂の基礎知識について学ぶ ・熱機関の変化による燃料の変遷を学ぶ				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	内燃機関、燃料・油脂				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. 国家資格である二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士、二級二輪自動車整備士取得できる知識を身につける。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	単位	SI基本単位、SI補助単位、SI組立単位、接頭語、確認課題	P75～78
第2回	燃料（石油精製法）	蒸留及び精製、原油、各種燃料の製法	P37～39
第3回	燃料（燃料の性状と規格）	燃料の発熱量、ガソリンの性状と規格	P40～43
第4回	燃料（燃料の性状と規格）	軽油の性状と規格、LPガスの性状と規格	P43～46
第5回	復習	単位、燃料	
第6回	潤滑及び潤滑剤（摩擦力と潤滑剤）	摩擦のメカニズム、オイルによる潤滑状態	P47～48
第7回	潤滑及び潤滑剤（摩擦力と潤滑剤）	潤滑剤の作用、潤滑剤の種類	P48～49
第8回	潤滑及び潤滑剤（潤滑油）	潤滑油の精製、潤滑油の性状	P50～52
第9回	潤滑及び潤滑剤（潤滑油）	エンジンオイル	P52～57
第10回	潤滑及び潤滑剤（潤滑油）	ギヤーオイル、グリース、その他の潤滑剤	P58～63
第11回	復習	潤滑及び潤滑剤	
第12回	作動油、その他	オートマオイル、CVTオイル、ショックアブソーバーオイル	P65～69
第13回	作動油、その他	ブレーキ液、LLC	P69～73
第14回	燃料電池	構造作動、水素の作り方、高圧水素タンク	
第15回	全固体電池、メタンハイドレート	構造作動、全固体電池のメリット	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	古瀬・住本・岡田	実務経験紹介	

科目名	エンジン整備Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年時に学んだガソリン・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解したうえで，より詳細な特徴や新機構について学ぶ。				
授業の一般目標	・ガソリン・エンジンの本体及び，各装置の構造と機能が説明できるようになる。 ・ガソリン・エンジンの電子制御装置の構造と機能及び，制御について説明できるようになる。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級ガソリン自動車（エンジン編），ガソリン・エンジン構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1．国家資格である二級ガソリン自動車整備士を取得できる知識を身につける。				
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	総論（ガソリン・エンジンの性能）	熱効率と仕事率及び，体積効率と充填効率について説明できるようになる（正味仕事率及び，機械効率の計算ができるようになる）	
第2回	総論（ガソリン・エンジンの燃焼）	ノッキングの発生原因と防止策及び，有害な排気ガスの発生過程について説明できるようになる	
第3回	総論（排出ガスの浄化）	排出ガスの浄化対策及び，スキッシュ・エリアについて説明できるようになる（有害ガスの低減方法，火炎伝播速度）	
第4回	エンジン本体（ピストン・リング）	ピストン・リングに起こる異常現象について説明できるようになる（スカッフ現象，スティック現象，フラッタ現象，フラッタ現象の発生頻度）	
第5回	エンジン本体（コンロッド，クランクシャフト）	コンロッド・ベアリングの要素及び，トーショナル・ダンパについて説明できるようになる（肉厚，クラッシュ・ハイト，張り，クランクシャフトに働く力）	
第6回	エンジン本体（エンジンの慣性力）	二次慣性力による振動と，バランス・シャフトによる振動の低減について説明できるようになる	
第7回	エンジン本体（バルブ機構）	可変バルブ機構の構造と作動が説明できるようになる（可変バルブ・タイミング機構，可変バルブ・リフト機構）	
第8回	小テスト	小テストの実施，回答と解説	
第9回	潤滑装置・冷却装置	油圧の制御及び，電動式ウォータ・ポンプについて説明できるようになる（リリーフ・バルブ，バイパス・バルブ，オイル・クーラ，ファン）	
第10回	燃料装置	電子制御式LPG燃料装置の構造と作動について説明できるようになる（気体噴射式，液体噴射式）	
第11回	吸排気装置	過給機及び可変吸気装置の構造と機能について説明できるようになる（ターボ・チャージャ，スーパ・チャージャ，可変吸気装置）	
第12回	電子制御装置（センサ）	センサの呼応像と機能について説明できるようになる（バキューム・センサ，スロットル・ポジション・センサ，クランク角センサなど）	
第13回	電子制御装置（アクチュエータ）	アクチュエータの構造と機能について説明できるようになる（インジェクタ，ISCV）	
第14回	電子制御装置（インジェクタ）	インジェクタの制御について説明できるようになる（駆動方式，噴射方式）	
第15回	電子制御装置（噴射量の制御）	インジェクタの制御について説明できるようになる（噴射量の制御，噴射量補正）	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	岡田　啓史	実務経験紹介	

科目名	エンジン整備Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年時に学んだジーゼル・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解したうえで，より詳細な特徴や新機構について学ぶ。				
授業の一般目標	・ジーゼル・エンジンの本体及び，各装置の構造と機能が説明できるようになる。 ・ジーゼル・エンジンの電子制御装置の構造と機能及び，制御について説明できるようになる。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級ジーゼル自動車（エンジン編），ジーゼル・エンジン構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1．国家資格である二級ジーゼル自動車整備士を取得できる知識を身につける。				
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	総論（ジーゼル・エンジンの燃焼）	ジーゼル・エンジンの燃焼及び，ジーゼル・ノックについて説明できるようになる。（空気過剰率，ジーゼル・ノックの発生原因と防止策）	
第2回	総論（ジーゼル・エンジンの排出ガス）	ジーゼル・エンジンの排出ガスについて説明できるようになる（黒煙，サルフェート，SOF）	
第3回	エンジン本体	キャビテーション及びトーショナル・ダンパについて説明できるようになる（シリンダ・ライナ，キャビテーション，トーショナル・ダンパ）	
第4回	潤滑装置・冷却装置	油圧の制御及び，ファン・クラッチについて説明できるようになる（レギュレータ・バルブ，粘性式ファン・クラッチ）	
第5回	吸排気装置	ターボ・チャージャ及び，排気ガス後処理装置について，説明できるようになる（可変容量式ターボ・チャージャ，DPF，尿素SCR）	
第6回	小テスト	小テスト及び解答・解説の実施	
第7回	燃料装置（サプライ・ポンプ）	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる（吐出量制御式）	
第8回	燃料装置（サプライ・ポンプ）	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる（吸入調量式）	
第9回	燃料装置（コモンレ―ル）	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる（コモンレールの構造と機能）	
第10回	燃料装置（インジェクタ）	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる（インジェクタの構造と作動）	
第11回	燃料装置（インジェクタ）	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる（噴射率制御，分割噴射制御）	
第12回	燃料装置（ユニット・インジェクタ）	ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる（ユニット・インジェクタの構造，作動）	
第13回	総合復習　国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び，模擬試験の実施と解説	
第14回	総合復習　国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び，模擬試験の実施と解説	
第15回	総合復習　国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び，模擬試験の実施と解説	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	岡田　啓史	実務経験紹介	

科目名	シャシ整備Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。				
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	2級・3級ガソリン・ジーゼル自動車シャシ編および、シャシ構造Ⅰ・Ⅱ				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士合格レベルになるよう教科書に則した内容を知識を身につける。 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理観を身につける。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

授業で行う確認試験にて、60%以上正解すること。できない者は放課後に補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	第1章　総論	走行抵抗の各抵抗を理解する。又、駆動力と走行抵抗から最高速度や最大駆動力を読み、余裕駆動力を求め出せるよう、走行性能曲線図が読めるようになる。	
第2回	第1章　総論	MTのクラッチ伝達容量について説明できるようになる。	
第3回	第2章　動力伝達装置	Dレンジにおける自動変速線図を読めるようになる。	
第4回	第2章　動力伝達装置	プラネタリ･ギヤ式4速ATの構成部品とプラネタリ・ギヤの計算ができるようになる。	
第5回	第2章　動力伝達装置	プラネタリ・ギヤユニットについて、各変速に於ける組み合わせを理解し説明できるようになる。	
第6回	第2章　動力伝達装置	プラネタリ・ギヤユニットについて、各変速に於ける組み合わせを理解し説明できるようになる。	
第7回	第2章　動力伝達装置	ATのロックアップ機構の作動と構造について説明できるようになる。	
第8回	第2章　動力伝達装置	ATの安全装置の機構、及びストール試験について説明できるようになる。	
第9回	第2章　動力伝達装置	ATの電子制御について、各制御を理解し説明できるようになる。	
第10回	第2章　動力伝達装置	CVTの構造と作動について説明できるようになる。	
第11回	第2章　動力伝達装置	差動制限型デファレンシャルの種類と構造について説明できるようになる。	
第12回	第2章　動力伝達装置	インタ・アクスル・デファレンシャルの種類と構造について説明できるようになる。	
第13回	第3章　アクスル及びサスペンション	サスペンションの性能、ボデーの振動及び揺動、異音、乗り心地を説明できるようになる。	
第14回	第3章　アクスル及びサスペンション	金属、エア･スプリング型サスペンションの特徴を説明できるようになる。	
第15回	第3章　アクスル及びサスペンション	エア・コンプレッサの構成部品及び作動を説明できるようになる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田　安延	実務経験紹介	

科目名	シャシ整備Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。				
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	2級・3級ガソリン・ジーゼル自動車シャシ編および、シャシ構造Ⅰ・Ⅱ				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士合格レベルになるよう教科書に則した内容を知識を身につける。 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理観を身につける。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	第4章 ステアリング装置	旋回性能（コーナリングフォースとスリップアングル）が説明できる。	
第2回	第4章 ステアリング装置	油圧式パワーステアリング…コントロールバルブ作動及びポンプの機構と作動が説明できる。	
第3回	第4章 ステアリング装置	油圧式パワーステアリング…オイル・ポンプの機構と作動が説明できる。	
第4回	第4章 ステアリング装置	電動パワーステアリング…各構成部品と車速感応制御作動が説明できる。	
第5回	第5章 ホイール及びタイヤ	ホイールの種類と機能、タイヤのたわみとバランスについて説明できる。	
第6回	第6章 ホイール及びタイヤ	タイヤの走行音、タイヤの異常磨耗について、種類や原因を説明できる。	
第7回	第6章 ホイール・アライメント	キャンバ、キャスタ、キングピン傾角について説明できる。	
第8回	第6章 ホイール・アライメント	トー、切れ角、サイドスリップ、軸スリップついて説明できる。	
第9回	第7章 ブレーキ装置	ABSの構成部品及び作動が説明できる。	
第10回	第7章 ブレーキ装置	トラクション・コントロールの構成部品及び作動が説明できる。	
第11回	第7章 ブレーキ装置	エア・油圧ブレーキの構成部品について説明できる。	
第12回	第7章 ブレーキ装置	ブレーキ・バルブ及び圧縮空気式制動倍力装置の作動が説明できる。	
第13回	第7章 ブレーキ装置	フル・エア式ブレーキについて説明できる。	
第14回	第7章 ブレーキ装置	エキゾースト・ブレーキ、エディカレント・リターダが説明できる。	
第15回	第7章 ブレーキ装置	トラック・フレーム、モノコック・ボデーの特徴について説明できる。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田 安延	実務経験紹介	

科目名	電装整備Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。 1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。				
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 1年次に学習した電気工学及び電装品単体の知識をもとに、実車において点検、整備及び故障探求が行えるようになる。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級ガソリン自動車、二級ジーゼル自動車、二級自動車シャシ編、電装品構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 電装分野において、二級自動車整備技能登録試験の合格者と同等の知識を習得する。 2. サービススタッフとしての心構えやマナーを身につけさせる。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	外部診断機	外部診断機でできる作業・使用方法を理解して使えるようになる	
第2回	警報装置	自己診断システムの可能範囲を理解して活用できるようになる	
第3回	半導体	半導体を使った回路の作用が説明できるようになる （整流回路、定電圧回路）	
第4回	半導体	半導体を使った回路の作用が説明できるようになる （スイッチング増幅回路、発振回路）	
第5回	半導体	論理回路の記号と役割を理解して使えるようになる	
第6回	バッテリ	起電力と電解液比重の関係が説明できるようになる	
第7回	バッテリ	バッテリの特性を理解して説明できるようになる （性能特性、容量、自己放電）	
第8回	バッテリ	バッテリの特性を理解して説明できるようになる （始動性能、電解液の比重と温度、バッテリの寿命）	
第9回	バッテリ	バッテリの様々な点検方法を理解して点検できるようになる	
第10回	始動装置	プラネタリギヤ式スタータの特性を理解して説明できるようになる	
第11回	始動装置	プラネタリギヤ式スタータの特性を理解して説明できるようになる	
第12回	始動装置	スタータの点検整備ができるようになる	
第13回	充電装置	三相交流の発生の仕組み・結線の違いによる特長を 理解して説明できるようになる	
第14回	充電装置	中性点ダイオード付オルタネータの利点と 三相全波整流の仕組みが説明できるようになる	
第15回	充電装置	ボルテージレギュレータの機能が説明できる オルタネータの点検作業ができるようになる	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田　安延	実務経験紹介	

科目名	電装整備Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。 1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。				
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 1年次に学習した電気工学及び電装品単体の知識をもとに、実車において点検、整備及び故障探求が行えるようになる。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級ガソリン自動車、二級ジーゼル自動車、二級自動車シャシ編、電装品構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 電装分野において、二級自動車整備技能登録試験の合格者と同等の知識を習得する。サービススタッフとしての心構えやマナーを身につけさせる。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	点火装置	マイクロコンピュータ式点火装置の作動を理解して点火時期制御の必要性を説明できるようになる	
第2回	点火装置	スパークプラグの自己清浄温度と過早点火温度を理解して熱価との関係性について説明できるようになる	
第3回	点火装置	着火性能と着火ミス防止のための工夫が説明できるようになる	
第4回	電子制御装置（点火制御装置）	イグナイタの役割について説明できるようになる （過電流保護回路について）	
第5回	電子制御装置（点火制御装置）	点火補正制御について説明できるようになる （始動後制御補正進角、最大最小進角特性）	
第6回	ハイブリッド車、電気自動車	電気自動車・ハイブリッド車の取り扱いの基礎知識を身につける （低圧電気取扱い特別教育講習前の補習）	
第7回	計器類	車速に関する計器の原理と作動を説明できるようになる	
第8回	計器類	燃料・油圧・温度に関する計器の原理と作動を説明できるようになる	
第9回	計器類	その他の計器に関する原理と作動を説明できるようになる	
第10回	空気調和装置（エアコンディショナ）	エアコンディショナの種類と構造を理解して説明できるようになる	
第11回	空気調和装置（エアコンディショナ）	冷媒サイクルの名称、役割、状態を理解して説明できるようにする	
第12回	空気調和装置（エアコンディショナ）	自動制御の種類と役割について説明できるようになる	
第13回	電気装置の配線	CAN通信システムと配線図について説明できるようになる	
第14回	ハイブリッド車、電気自動車	低圧電気取扱い者特別教育講習に向けて、修了試験に合格できるようになる。	
第15回	安全装置	SRSエアバックとプリテンショナシートベルトの作動について理解して説明できるようになる	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田　安延	実務経験紹介	

科目名	故障探究	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車の各装置の基本構造と機能を理解した上で、故障の原因を知り故障探究の進め方を学ぶ。				
授業の一般目標	国家資格である、二級自動車整備士を取得できる知識を身に付ける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	自動車の故障と探究				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1.各装置の故障原因を理解し故障探究が出来るようになる。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	車両の維持管理	故障を防ぐための法規制、故障の発生状況、顧客満足度について説明できるようになる。	
第2回	自動車整備に対するサービスの基本	整備対応手順の流れとその各項目について説明できるようになる。	
第3回	自動車保有台数と保守管理の必要性	日本国内の自動車保有台数から、その保守管理の重要性と保守管理を怠った場合について説明できるようになる。（エンジン分野）	
第4回	自動車保有台数と保守管理の必要性	日本国内の自動車保有台数から、その保守管理の重要性と保守管理を怠った場合について説明できるようになる。（シャシ分野）	
第5回	言葉とプレゼンテーション	「話す」「聴く」について学習し、コンセンサスゲームを通して、お客様との会話技術を向上させる。	
第6回	センサの種類（信号形態別）	各種センサの信号形態を理解し、故障探究時に判断できるようになる。（論理信号センサ）	
第7回	センサの種類（信号形態別）	各種センサの信号形態を理解し、故障探究時に判断できるようになる。（リニア信号センサ）	
第8回	センサの種類（信号形態別）	各種センサの信号形態を理解し、故障探究時に判断できるようになる。（周波数信号センサ）	
第9回	回路故障①	電圧の基本を理解し、断線故障・短絡故障の判断ができるようになる。	
第10回	回路故障①	電圧の基本を理解し、断線故障・短絡故障の判断ができるようになる。	
第11回	回路故障①	電圧の基本を理解し、断線故障・短絡故障の判断ができるようになる。	
第12回	回路故障②	回路故障時における、外部診断器の活用方法を理解し実習につなげる。	
第13回	エンジンの故障探究手順	エンジンの故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。（ガソリンエンジン）	
第14回	シャシの故障探究手順	シャシの故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。	
第15回	電装の故障探究手順	電装品の故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。	
第16回	期末試験		

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	川田　安延	実務経験紹介	

科目名	検査機器	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車の整備工具及び検査機器について、その構造、機能、原理、特徴、測定方法、取り扱いの注意事項等を学習する。				
授業の一般目標	自動車の検査に使用するための各種機器の取り扱いや車両の良否の判定方法を習熟することで、安全・安心を提供できることを目指す。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	自動車整備工具・機器、法令教材				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 機器の構造・作動や測定方法、正しい取り扱い方法、結果の判定方法について習熟すること。 2. 判定基準値等に関して、国家試験合格レベルの知識の習得を目指す。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	自動車検査用機器	8-1 概要 1)検査用機器の技術基準適合証明	
第2回	自動車検査用機器	8-1 概要 2)検査用機器取り扱い	
第3回	自動車検査用機器	8-2 サイド・スリップ・テスタについて	
第4回	自動車検査用機器	8-3 ブレーキ・テスタについて	
第5回	自動車検査用機器	8-4 スピード・メータ・テスタについて	
第6回	自動車検査用機器	8-5 スーパ・コンビネーション・テスタについて	
第7回	理解度チェックⅠ	8-1～5 の範囲でテストを行い、問題の60%以上を正解する。	
第8回	自動車検査用機器	8-6 ヘッドライト・テスタについて	
第9回	自動車検査用機器	8-7 排気ガス測定器について	
第10回	自動車検査用機器	8-8 黒煙測定器ついて	
第11回	自動車検査用機器	8-9 オパシメータについて	
第12回	自動車検査」	8-10 騒音計について	
第13回	理解度チェックⅡ	8-6～10 の範囲でテストを行い、問題の60%以上を正解する。	
第14回	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	
第15回	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	
第16回	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	
第17回	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	
単位認定 総合成績60点、出席率90%以上	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	
第19回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点
出席率90%以上 本試験70% 小テスト15点 態度点15点

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	岡田 啓史	実務経験紹介	

科目名	検査法	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	道路運送車両（保安基準）の知識を身に着ける。				
授業の一般目標	道路運送車両（保安基準）を国家試験の過去問題ができるようになる。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	法令教材				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. 道路運送車両法に基づく保安上の技術基準いついて、「道路運送車両の保安基準」及び、「保安基準の細目を定める告示」に基ずき、二級整備士として必要な知識を学習し、数値や基準を覚える。 また、材料の性質を知ることで、適切な整備・修理が出来るようになる。				
☐ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	自動車保安基準	保安基準の概要について理解して説明出来るようになる。	
第2回	自動車保安基準	自動車の長さ、幅、高さ、最低地上高、車両総重量、軸重について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第3回	自動車保安基準	自動車の安定性、最小回転半径、走行装置、操縦装置、制動装置について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第4回	自動車保安基準	自動車の燃料装置、車枠及び車台、巻き込み防止装置、乗車装置、乗降口について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第5回	自動車保安基準	自動車の非常口、窓ガラス、騒音装置、排出ガス、前照灯、前部霧灯について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第6回	自動車保安基準	自動車の車幅灯、側方灯及び側方反射器、番号灯、尾灯、後部反射器、制動灯について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第7回	自動車保安基準	自動車の後退灯、方向指示器、非常点滅表示灯、その他の灯火について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第8回	中間テスト		
第9回	自動車保安基準	自動車の警音器、非常信号用具、後写鏡、窓ふき器、速度計、消火器、運行記録計、乗車定員及び最大積載量について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第10回	自動車保安基準	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第11回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第12回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第13回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第14回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第15回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	岡田　啓史	実務経験紹介	

科目名	法規	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	道路運送車両法の学習				
授業の一般目標	道路運送車両法を理解すること				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	法令教材				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 道路運送車両法の条文を理解する。 2. 条文を理解する方法として、二級整備士の国家試験の過去問題等を反復学習する。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	道路運送車両法	整備士技能検定制度について　第55条 自動車を取り巻く法規制の概要	
第2回	道路運送車両法	道路運送車両法の意義、目的、定義、自動車の種別	
第3回	道路運送車両法	道路運送車両法の概要と目的 復習　練習問題 自動車の登録の概要と種類	
第4回	道路運送車両法	自動車登録番号標の表示の義務 車台番号の打刻、臨時運行について	
第5回	道路運送車両法	自動車の登録のまとめ　練習問題 保安基準の概要と点検及び整備について	
第6回	道路運送車両法	点検及び整備について 自動車点検基準	
第7回	道路運送車両法	整備命令 点検及び整備のまとめ　練習問題	
第8回	道路運送車両法	検査の概要 新規検査及び継続検査	
第9回	道路運送車両法	臨時検査 構造等変更検査及び予備検査	
第10回	中間テスト	前半の復習	
第11回	道路運送車両法	分解整備事業の種類、認証について	
第12回	道路運送車両法	分解整備事業の義務と遵守事項について	
第13回	道路運送車両法	指定自動車整備事業、保安基準適合証について	
第14回	道路運送車両法	指定整備記録簿、自動車整備振興会について	
第15回	道路運送車両法	不正使用、不正改造について	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	岡田　啓史	実務経験紹介	

科目名	工作作業実習	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	各種機械工作機器・作業用工具等の使用方法、取り扱いを習熟させる。				
授業の一般目標	作品制作を通して、機器類や作業用工具の取扱いを習熟させ、基本的な作品を正確に制作できるようにする。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車整備作業、自動車整備工具・機器				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 安全作業・整理・整頓・清掃の徹底、機器類の取り扱いの理解度向上、完成作品提出				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

安全作業、正しい工具の使い方、作品の完成

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	工具の名称・使用方法と安全作業	工具の正式な名称と正確な使用方法を覚えて、簡単な分解作業が出来るようになる。 自動車の整備作業に於ける安全作業を意識して作業できるようになる。	
第2回	製図の基本と加工作業	製図の基礎を学び、各自が作成した図面にそって作品を制作出来るようになる。 弓のこ、卓上ボール盤等が使用できるようになる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%　小テスト15点　態度点15点

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延	実務経験紹介	

科目名	測定作業実習	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車整備に必要な工具・機器・計測器の基本的な取扱い及び測定作業とその応用ができるように習熟させる。				
授業の一般目標	安全作業、整理整頓の習得 各種測定機器等使用方法・取り扱い・測定技術の習得				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車整備作業、自動車整備工具・機器				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. 自動車整備工場で使用される工具・測定機器を使用して測定物を測定出来るようになる。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士としての基礎となる測定技術と安全作業を身に付ける。

授業計画（全体）

実習モジュールを使用し、測定機器・工具等の使用方法を学ぶとともに実技試験を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	測定機器の取り扱い	スケール、ノギス、ピッチゲージによる測定が出来るようになる。	
第2回	測定機器の取り扱い	マイクロ・メータ、ダイヤル・ゲージ、シリンダ・ゲージによる測定が出来るようになる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%、態度点15%、レポート点15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延	実務経験紹介	

科目名	エンジン実習Ⅰ	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	エンジン実習を行うことで，エンジンに関する基礎知識と技術を習得する。				
授業の一般目標	3級自動車ガソリン・エンジン，3級自動車ジーゼル・エンジンの国家試験に合格できるレベルの基礎知識と技術を習得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	3級自動車ガソリン・エンジン，3級自動車ジーゼル・エンジン　ガソリン・エンジン構造，ジーゼル・エンジン構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1．エンジンの分解・測定・組立から，各部品の名称・構造・作動を理解する。　2．工具及び一般測定器の取扱いを習得する。 3．5S（整理，整頓，清掃，清潔，安全作業）を身につけ，実行できるようになる。				
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1．自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	2気筒エンジンの分解・組立	ダイハツABエンジンの分解・組立を通じて，エンジンの各部品の名称・構造・作動を理解すると共に，正しい工具の使い方を理解し，実技試験にて60%以上を正解することができるようになる。	
	5気筒OHVエンジンの分解・測定・組立	トヨタ5Kエンジンの分解・測定・組立を通じて，シリンダ・ヘッドやバルブの名称・構造・作動を理解し，実技試験にて60%以上を正解することができるようになる。	
第2回	可変バルブ・タイミング機構のエンジンの分解・測定・組立	ミツビシ4G92エンジンの分解・組立を行い，可変バルブ・タイミング機構の種類や構造・作動の違いを理解し，実技試験にて60%以上を正解することができるようになる。	
	4気筒水平対向エンジンの分解・測定・組立	スバルEJ20エンジンの分解・測定・組立を通じて，4気筒直列エンジンとの違いやエンジン各部の良否判定ができるようになり，実技試験にて60%以上を正解することができるようになる。	

成績評価方法

単位認定　60点以上
出席率90%以上　定期試験70%以上（実技試験＋筆記試験）　態度点15%　レポート15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	髙松　久登　・　西尾　昌幸	実務経験紹介	

科目名	エンジン実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	

授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年時に学んだガソリン・エンジン及び、ジーゼル・エンジンの本体や各装置の基本的な整備技術を理解した上で、より高度な整備技術や、エンジンの点検及び調整方法ををを身に付ける。
授業の一般目標	国家資格である、二級ガソリン自動車整備士及び、二級ジーゼル自動車整備士としての整備技術を身に付ける。
受講条件	出席率90%以上
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級ガソリン自動車（エンジン編）、二級ジーゼル自動車（エンジン編）、自動車整備工具・機器、自動車の故障と探究、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ジーゼル・エンジン
授業の到達目標	
□ 知識・理解の観点	・正しい工具を使用し、マニュアルを見ながら正しい手順で整備作業が出来るようになる。・整備機器や各種ゲージを正しく使用し、エンジンや各装置の点検、調整が出来るようになる。 ・内燃機関総合性能試験機を使用し、内燃機関の性能試験及び、エンジン性能曲線図が作成出来るようになる。・フローチャートを用いた故障探
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1．自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

正しい工具を用い、正しい作業手順で作業を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	列型インジェクション・ポンプの単体点検及び、分配型インジェクション・ポンプの噴射時期の調整	インジェクション・ポンプ・テスタによる列型インジェクション・ポンプの点検、調整及びトップクリアランスの点検が出来るようになる。 メジャリング・デバイスを使用し、分配型インジェクション・ポンプの燃料噴射時期の調整が出来るようになる。	
第2回	内燃機関の性能試験及び、エンジン性能曲線図の作成	内燃機関総合性能試験機の構造と取扱いを学び、エンジンの軸出力、軸トルク、燃料消費率、熱効率を算出しエンジン性能曲線図が作成出来るようになる。	
第3回	フローチャートを用いたエンジンの故障探究	故障探究の手法を学び、フローチャートを用いたガソリン・エンジンの故障探究が出来るようになる。	
第4回	ロータリ・エンジンの点検及び、測定	マツダ13Bロータリ・エンジンの分解及び、構成部品の点検と測定を行うことで、SSTの正しい使用方法及び、ロータリ・エンジンの特徴並びに、構成部品の名称と機能が説明出来るようになる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	髙松　久登　・　西尾　昌幸	実務経験紹介	

科目名	エンジン実習Ⅲ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－

授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1・2年時に学んだガソリン・エンジン及び、ジーゼル・エンジンの本体や各装置の基本的な整備技術を理解した上で、より高度な整備技術や、エンジンの点検及び調整方法をを身に付ける。
授業の一般目標	国家資格である、二級ガソリン自動車整備士及び、二級ジーゼル自動車整備士としての整備技術を身に付ける。
受講条件	出席率90％以上
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級ガソリン自動車（エンジン編）、二級ジーゼル自動車（エンジン編）、自動車整備工具・機器、自動車の故障と探究、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ジーゼル・エンジン
授業の到達目標	
□ 知識・理解の観点	・内燃機関総合性能試験機を使用し、内燃機関の性能試験及び、エンジン性能曲線図が作成出来るようになる。 ・フローチャートを用いた故障探究が出来るようになる。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

正しい工具を用い、正しい作業手順で作業を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	シリンダ・ヘッドの亀裂点検及び、インジェクション・ノズルの点検、調整	いすゞ4JG2エンジンのシリンダ・ヘッドを用い、染色浸透探傷法によるシリンダ・ヘッドの亀裂点検が出来るようになる。スロットル・ノズルとホール・ノズルの違いが説明出来るようになるとともに、ノズル・テスタを用いたインジェクション・ノズルの点検及び、調整が出来るようになる。	
第2回	オイル・クリアランスの点検及び、4サイクル6気筒、ガソリン・エンジンのバルブタイミングと点火時期の調整	クランク・シャフトのオイル・クリアランスの点検及び、バルブ・タイミングと点火時期を正しく調整し、エンジンが始動できるようになる。	
第3回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
第4回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延 髙松　久登　・　西尾　昌幸	実務経験紹介	

科目名	シャシ実習Ⅰ	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	シャシの基本実習を行うことにより、整備の基礎知識や基礎技術の習得を図る。				
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの基礎知識を身につける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	3級ガソリン・ジーゼル自動車シャシ編、シャシ構造Ⅰ及びⅡ、各整備要領書				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 国家3級整備士試験合格レベルの技術を身につける。　2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体得する。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	動力伝達装置	自動車の歴史、動力伝達装置 クラッチの構造、機能と分解及びクラッチ・ディスクの測定ができる。 コイル・スプリング式クラッチ・カバーの分解・組立ができる。 スプリングの計測や及びレバーの調整ができる。	
		トランス・ミッションの構造、機能と4速MT分解・組立ができる。 シンクロ・メッシュ機構、インタ・ロック機構が説明できる。 トランスファの分解・組立ができる。 FFトランスアクスルの分解・組立ができる。	
第2回	動力伝達装置	ドライブ・シャフトとプロペラ・シャフトの構造が説明できる。 ファイナル・ギヤ及びデファレンシャル・ギヤの分解、組立、調整ができる。	
	アクスル及びサスペンション	各種サスペンション型式の違いが説明できる。 ストラット、スプリングの分解、組付けができる。	

成績評価方法

単位認定　60点以上
出席率90%以上　定期試験70%以上（実技試験＋筆記試験）　態度点15%　レポート15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	小林　建次　・　山口　道夫	実務経験紹介	

科目名	シャシ実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－

授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの知識を身につける。 故障診断作業の技術を習得する。
受講条件	出席率90%以上
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級・三級ガソリン・ジーゼル自動車シャシ編、シャシ構造Ⅰ及びⅡ、各整備要領書
授業の到達目標	
□ 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士試験合格レベルになるよう教科書等に則した内容の技術を身につける。 2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体得する。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	ステアリング装置	ステアリング操作機構、ギヤ機構、リンク機構が説明できる。 ラックピニオン型ギヤボックス及びボールナット型ギヤボックスの分解・組立ができる。	
	ホイール及びタイヤ	ホイール及びタイヤの呼称、タイヤの構造の違いを説明できる。 タイヤの脱着及びホイール・バランスが調整できる。 チューブ・タイプとチューブ・レスのタイヤのパンク修理ができる。	
第2回	ブレーキ装置	ブレーキ装置真空式制動倍力装置の作動が説明できる。 ブレーキの種類と構造、機能が説明できる。 ドラム・ブレーキとディスク・ブレーキ分解・組立とシールの交換ができる。	
第3回	動力伝達装置	オートマチック・トランスミッションの基礎 ・各構成部品の構造と働き、動力伝達、変速比が説明できる。 オートマチック・トランスミッションの応用4速ATの分解組立作業ができる。動力伝達、電子制御AT及びロックアップ機構が説明できる。 CVTの動きを見る。 ドライブシャフトの車両からの脱着及びオーバホールが作業ができる。	
第4回	ステアリング装置	油圧式及び電動式パワー・ステアリングが説明できる。 油圧式PSラック・ピニオン型、インテグラル型、リンケージ型の分解組立ができる。 ギヤ・ボックスのコントロール・バルブ部比較とオイル・ポンプ分解組立、ができる。	
	動力伝達装置	差動制限型ディファレンシャルの分解・組立ができ、ノーマルデフとの違い及び差動が説明できる。	

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%（実技試験 + 筆記試験）　態度点15%　レポート15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト		○					15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	小林　建次 ・ 山口　道夫	実務経験紹介	

科目名	シャシ実習Ⅲ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－

授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1・2年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの知識を身につける。 故障診断作業の技術を習得する。
受講条件	出席率90%以上
事前学習について （テキスト・参考書等）	二級・三級ガソリン・ジーゼル自動車シャシ編、シャシ構造Ⅰ及びⅡ、各整備要領書
授業の到達目標	
□ 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士試験合格レベルになるよう教科書等に則した内容の技術を身につける。 2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体得する。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	ホイール・アライメント	ホイール・アライメントの各要素を理解する。 CCKゲージ、ターニング・ラジアス・ゲージを用いた測定ができる。	
第2回	ブレーキ装置	エア・油圧式、フルエア式ブレーキの違いを説明できる。 ブレーキ・バルブ、リレー・バルブ、制動倍力装置の構造、作動を説明できる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%（実技試験 + 筆記試験）　態度点15%　レポート15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト		○					15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延 小林　建次　・　山口　道夫	実務経験紹介	

科目名	電装実習Ⅰ	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	次の各装置について、学科授業と連動させた内容で構造作動を学習する。 電子・電気関係（計算含む）、 電磁石・電磁誘導、 半導体、 バッテリ、 始動装置、 充電装置、 点火装置、 灯火装置、 計器類、 冷暖房装置				
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 二年生の実車授業の基礎となる装置単体を中心に電装品の知識を習得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車シャシ、三級自動車ジーゼルエンジン、電装品構造				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	三級の自動車整備技能登録試験の合格者と同等の整備ができるようになる。 サービススタッフとしての心構えやマナーを身につける。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	サーキットテスタの使用方法 電気の基礎 電圧、電流、抵抗 電気回路の測定	アナログ式のテスタを使用できるようになる。 デジタル式のテスタを使用できるようになる。 電圧、電流、抵抗値を正確に測定ができるようになる。	
		安定化電源、スイッチ、抵抗、バルブを使用して簡単な配線図通りに回路が組めるようになる。 また、テスタを使用しなくても電圧、電流、抵抗値が答えられるようになる。	
第2回	電気と磁気の各法則 コイルの誘導起電力 バッテリ	右ねじの法則及び右手親指の法則で、電磁石の極性が答えられるようになる。 フレミングの法則で、コイルの回転方向及び発生する電流の方向が答えられるようになる。	
		バッテリの比重からバッテリの状態を知ることができるようになる。 バッテリの充電が行えるようになる。 バッテリ上がりの車両を正しく救援できるようになる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%　レポート点15%　態度点15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○			70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	三宅　伸和　・　古瀬　達生	実務経験紹介	

科目名	電装実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－

授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術、能力の幅を広げる。 電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスタ類の取り扱いが出来る技術を習得させる。
授業の一般目標	整備士として必要な電気の基礎を身に付け故障診断ができる技術を習得する。
受講条件	出席率90%以上
事前学習について （テキスト・参考書等）	国家2級ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、電装品構造、基礎自動車工学。

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. 配線図の読み取り方法
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

各分野の終了時点で実習確認テストを行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	半導体	ダイオード・ツェナダイオード・発光ダイオード・ホトダイオード トランジスタ・コンデンサの各半導体の回路接続と点検ができるようになる。	
		トランジスタの増幅率について理解する。 必要な電流制限抵抗値を求めて、LEDなどの回路が作成できるようになる。	
第2回	始動装置 充電装置	アーマチュア、フィールド、ブラシ、マグネットスイッチの 各装置の点検ができるようになる。 スタータの無負荷特性テストが行えるようになる。	
		ロータ、ステータ、ダイオード、ボルテージレギュレータの 各装置の点検ができるようになる。 オシロスコープが取り扱えるようになる。	
第3回	点火装置 灯火装置、計器類、ボデー電装	イグニションコイル、ハイテンションコード、スパークプラグの 点検が行えるようになる。 スパークプラグの状態を見て、熱価の選択ができるようになる。	
		灯火装置の回路が組めるようになる。 適切なリレーを使用して、回路が組めるようになる。 燃料計を例にして、指針の動く原理が説明できるようになる。 スイッチの導通表を基にワイパの回路が組めるようになる。	
第4回	始動　充電装置	実車を利用してスタータ・モータの脱着　車上点検・単品部品の分解、点検測定、組み立て。	
		オルタネータ、ボルテージレギュレターの構造、作動　車上のオルタ・ネータを脱着し発生電圧を測定、注接点ダイオード付きオルタ・ネータ出力特性	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト		○					評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	三宅　伸和　・　古瀬　達生	実務経験紹介	

科目名	電装実習Ⅲ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1・2年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術、能力の幅を広げる。 電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスタ類の取り扱いが出来る技術を習得させる。				
授業の一般目標	整備士として必要な電気の基礎を身に付け故障診断ができる技術を習得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	国家2級ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、電装品構造、基礎自動車工学。				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 配線図の読み取り方法				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

各分野の終了時点で実習確認テストを行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	点火装置　空調装置	1年次の復習、点火時期の確認　車上点火装置の取り外し、各部点検、イグナイタの点検	
		実車を使用してエアコンガスの入れ替え、各部部品名、役割の確認、コンプレッサの分解組付け	
第2回	安全装置　故障探究	実車両の不具合故障診断、点検　配線図の読み取り方法　車両取り扱いの方法	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%　小テスト15%　態度点15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト		○					評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延 髙松　久登　・　西尾　昌幸	実務経験紹介	

科目名	総合実習Ⅰ	単位数	6	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車の日常点検及び新車点検の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明出来る応酬話法を身につける。 自動車以外の幅広い知識を身につける為、二輪自動車の構造を学習する。				
授業の一般目標	1. 二輪自動車の構造を学習し、四輪自動車との違いを理解する。 2. 自動車の日常点検および新車無料点検を理解し、作業説明の応酬話法を身につける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	三級二輪自動車、二級二輪自動車　自動車定期点検の手引き、三級シャシ、三級自動車ガソリン・エンジン				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 二輪自動車を分解・測定・組付けをして、構造・作動について理解する。 2. 自動車の日常点検や新車無料点検を反復練習して点検の流れを身につける。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

各分野の終了時点で実技試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	二輪自動車	フロントサスペンション分解、点検、組付け　構造を理解する。 キャブレータ分解、点検、組付け　部品の役割について理解する。 取付やドライブチェーンの点検調整、各部品の構成について理解する。	
		キャブレータ構造、機能を理解する。 2サイクル・エンジン構造、作動について理解する。 二輪自動車の構造、機能、構成部品等について要点を理解する。	
第2回	自動車の日常点検作業 （作業説明応酬話法の実施）	作業前の車両確認を行い、お客様の車両の取り扱いを学ぶ。 日常点検及び、新車無料点検の内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し、不具合箇所については必要な整備作業を行う。	
		点検内容、点検結果を正しくお客様に伝える。（作業説明応酬話法を理解する）	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%、態度点15%、レポート点15%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎		○	◎		70	秀（S）：100点～90点
小テスト							15	優（A）：89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良（B）：79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上 成績点70%　提出物&授業態度							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延 村田　拳人　・　近藤　太一	実務経験紹介	

科目名	総合実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必須	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車定期点検整備の内容や点検結果を説明するだけでなく整備士として、お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスが出来るような接客応酬話法を身につける。整備士として必要な知識でもある、積載車（ウインチ）の取り扱いについて学習し安全作業を身につける。また、自動車の点検方法だけでなく、二輪自動車の点検方法を理解し知識を身につける。				
授業の一般目標	1. 二輪自動車の点検内容を学習し、四輪自動車との違いを理解する。 2. 自動車定期点検の整備内容を理解し、お客様への車の適切なアドバイスが出来る接客応酬話法を身につける。 3. 積載車（ウインチ）の取り扱いを理解し、安全作業を身につける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	自動車定期点検の手引き、シャシ構造Ⅰ及びⅡ				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 定期点検整備を記録簿に基づいて点検の流れや項目を理解し、作業や各部品の良否判断ができるようになる。 2. 四輪自動車と二輪自動車の点検整備の違いを理解する。				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

正しい工具を用い、正しい作業手順で作業を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	二輪自動車の点検作業	二輪自動車の点検整備内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し不具合箇所については必要な整備作業を行う。 点検で行った内容を伝え、点検結果をお客様に説明する。	
第2回	定期点検整備作業 （接客応酬話法の実施） 積載車（ウインチ）の取り扱い	定期点検（12ヶ月点検）の手順を理解し良否の判断を行う。 特定整備の概要説明、各メーカー車両にて点検作業をする。 お客様への車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスを行う。	
		積載車（ウインチ）の取り扱いについて理解する。 積載車（ウインチ）の安全作業の実施。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　（期末試験70%、態度点15%、レポート点15%で評価）

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	村田　拳人　・　近藤　太一	実務経験紹介	

科目名	総合実習Ⅲ	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必須	開設時期	通期	教員実務経験対象	－

授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車の定期点検整備作業の基礎知識と技術を習得する。 日々進化する自動車の自動運転や自動ブレーキ技術に使用されている電装部品（センサなど）に対しての調整方法を学習し実施する。
授業の一般目標	1．自動車の定期点検整備作業を理解し、正確に作業が出来る。 2．点検結果から良否の判断を行い、不具合箇所（故障部位）に対しては交換作業が出来る。
受講条件	出席率90％以上
事前学習について （テキスト・参考書等）	自動車定期点検の手引き、自動車の故障と探究
授業の到達目標	
□ 知識・理解の観点	1．記録簿に基づいて点検の流れや項目を理解し、作業や各部品の良否判断が出来るようになり、系統的に故障探究ができる。 2．最新技術に使用されている車載カメラやセンサの調整作業ができる。
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1．自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

正しい工具を用い、正しい作業手順で作業を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	定期点検整備作業 車載カメラの調整 （エーミング作業について）	定期点検（12ヶ月点検）の手順と作業を理解する。 特定整備の概要説明、各メーカー車両にて点検作業を実施する。 不具合箇所（故障部位）に対して、故障診断を実施する。 最新技術に使用されている、車載カメラやセンサの調整作業。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90％以上　（期末試験70％、態度点15％、レポート点15％で評価）

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	喜多　好洋　・　岡田　啓史　・　川田　安延	実務経験紹介	

科目名	企業技術講習	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	国内メーカーや海外メーカーの自動車販売会社様の協力により行う技術講習会で、最新技術や業界の近況を知ることのできる授業 職業実践専門課程認証校としての取り組む授業				
授業の一般目標	国内メーカーや海外メーカーの最新技術を現場で働くプロから学び新しい技術を身につけるとともに、就職活動にも役立つ業界研究を行う				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	なし				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	・各メーカー様及び、担当していただく各企業様の内容に準じるため各回ごとに定める　　・下記授業計画は次年度の予定				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	EV・PHEV　～ゼロエミッション～		京都三菱自動車販売㈱様
第2回	スカイアクティブテクノロジー ～次世代クリーンディーゼル～		㈱京滋マツダ様
第3回	Honda Handling　～車両取り扱い～		㈱ホンダベルノ滋賀様
第4回	大型車両の整備		いすゞ自動車近畿様
第5回	無段変速CVT　～リニアトロニック～		近畿スバルグループ様
第6回	Life On Board　～先進の車内快適環境～		近畿日産㈱様
第7回	Basic Work　～基礎作業～		株式会社シュテルン大津
第8回	グローバルプラットフォーム		㈱ファーレン滋賀様
第9回	Working Saftey　～安全作業～		ネッツトヨタ京都㈱様
第10回	SDS－Ⅱ　～トラブルシューティング～		スズキ自販連様
第11回	FCV　～燃料電池・次世代燃料車～		京都トヨタ自動車㈱様
第12回	物流ソリューション		トヨタL＆F近畿㈱様
第13回	ワークショップ		滋賀ダイハツ販売㈱様
第14回	レース使用車両と市販車		ネッツトヨタ京華㈱様
第15回	リアルスポーツカー		八光自動車工業株式会社

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上　本試験70%　小テスト15%　態度点15%

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	外部講師及び 各担任と副担任	実務経験紹介	

科目名	検査作業実習Ⅰ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車の車検、検査作業の知識と技術を習得する。				
授業の一般目標	自動車の車検作業の技術を身につけ記録簿の記入が出来るようになる。 検査作業の知識を身につけて、検査機器を使用して測定、調整の技術を習得する。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	自動車定期点検の手引き、法令教材、二級自動車シャシ，三級自動車シャシ				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1．自動車整備作業の記録簿の記入や、検査の実務が出来るようになる。2．車検整備作業の箇所と流れが分かり基準を基に正確な整備作業が出来るようになる。3．検査する箇所の測定、点検、調整が検査機器を使用して出来るようになる。4．自動車の保安基準が理解出来るようになる。				
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1．自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				

授業計画（全体）

各分野の終了時点で実技試験を行なう。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	自動車の車検作業	検査作業が記録簿に基づいて作業が出来、部品の良否判断や各部の点検、調整が出来るようになる。	
第2回	自動車の検査作業	検査ラインを使用しさまざまな検査機器の使用方法と測定、調整の技術を習得して、自動車検査員の業務を理解し保安基準適合証の記入が出来るようになる。	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点
出席率90%以上 （期末試験70%、態度点15%、レポート点15%で評価）

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
単位認定　総合成績60点、出席率90%以上			○				欠格条件	

担当教員	村田　拳人 ・ 近藤　太一	実務経験紹介	

科目名	日本語Ⅰ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	基礎的な日本語に加え、自ら積極的に発話出来るようにするために、文法・語彙・読解・作文と幅広い日本語について総合的に学ぶ。				
授業の一般目標	日常の授業で使う漢字を理解する。N3・N2合格を目指し、日本語力を総合的に身に着ける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	日本語ライティング				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. N3レベル～N2レベルの語彙・漢字・文法を使える。自動車で出てくる語彙・カタカナ語の基礎的知識の習得。 2. 敬語を理解し人前で日本語を使い発表ができる。				
☐ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	日本語レベルチェック	日本語能力試験N3レベルのテストを実施し、および漢字テスト各学生の日本語能力を把握する。	
第2回	カタカナ語	カタカナをもう一度確認し、正確なディクテーションができるようにする。自動車に出てくるカタカナ語	
第3回	自動車の漢字・語彙	自動車に出てくる漢字・語彙を理解する。	
第4回	自動車の漢字・語彙	自動車に出てくる漢字・語彙を理解する。	
第5回	語彙文法	N3レベルの語彙文法の確認をすることで、基本を見直しN2レベルへとつなげる。	
第6回	読解	N3レベルの読解の確認をすることで、基本を見直しN2レベルへとつなげる。	
第7回	読解	N3レベルの読解の確認をすることで、基本を見直しN2レベルへとつなげる。	
第8回	文章力	作文を書くにあたっての、基礎的な表記の仕方、文体がわかる。	
第9回	文章力	話し言葉書き言葉の違いを認識でき、正確な書き言葉がわかる。	
第10回	文章力	説明文について勉強し、物事の描写ができる。	
第11回	敬語	尊敬語・謙譲語・丁寧語の違いが分かる。	
第12回	敬語	挨拶・訪問の敬語が使える。	
第13回	敬語	スピーチの敬語が分かる。	
第14回	表現力	「伝える」「伝達する」ことに関する日本語を習得することで、わかりやすい日本語で相手に伝える	
第15回	発表	敬語を使い、みんなの前で発表する。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）： 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）： 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）： 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	外部講師及び 各担任と副担任	実務経験紹介	

科目名	日本語Ⅲ	単位数	2	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	N2レベルの文法・語彙・読解だけでなく、作文や自己表現、プレゼンテーションと幅広い日本語について総合的に学ぶ。				
授業の一般目標	就職内定獲得のための日本語力・コミュニケーション能力を身に着ける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	トライN2				

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	N2～N1レベルの語彙・漢字・文法を使える。自動車で出てくる語彙・カタカナ語の知識の習得。敬語を使い分け、日本語で自己アピールができる。
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1．自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	日本語レベルチェック	日本語能力試験N２レベルのテストおよび漢字テストを実施し、各学生の日本語能力を把握する。	
第2回	自動車のカタカナ語	自動車で使うカタカナ語を勉強し、正確なディクテーションができる。	
第3回	自動車の日本語	自動車で使う漢字や語彙を勉強し、意味を説明できる。	
第4回	N2語彙・文法	N2レベルの漢字・語彙や文法を勉強し、日本能力試験対策とする。	
第5回	N2語彙・文法	N2レベルの漢字・語彙や文法を勉強し、日本能力試験対策とする。	
第6回	N2語彙・文法	N2レベルの漢字・語彙や文法を勉強し、日本能力試験対策とする。	
第7回	N2読解力	読解問題を解き、N2レベルの読解が理解できる。	
第8回	N2読解力	読解問題を解き、N2レベルの読解が理解できる。	
第9回	N2読解力	読解問題を解き、N2レベルの読解が理解できる。	
第10回	敬語	電話で使われる敬語を勉強し、アポイントが取れる。	
第11回	敬語	面接時で使われる敬語を勉強し、面接試験対策とする。	
第12回	敬語	面接時で使われる敬語を勉強し、面接試験対策とする。	
第13回	表現力	自己表現に必要な語彙などを勉強し、自己PRの基本を作り、自己PRができる。	
第14回	表現力	要点をまとめて発話や作文する訓練をし、順序や理由を考えて明確に表現する力を身に着ける。	
第15回	発表	N2レベルの語彙や文法を駆使し、自分について発表する。	
第16回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	外部講師及び 各担任と副担任	実務経験紹介	

科目名	キャリアデザイン	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	学校行事（入学式，体育大会，消防訓練，、ほりかわ祭，国内研修）や就職活動に向けた研修 資格取得（危険物取扱者）に向けた模擬試験 JAMCA全国統一模擬試験（3級）に向けた対策授業				
授業の一般目標	・学校行事に参加し学生間の親睦を深める ・企業様からの内定 ・資格の取得				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	なし				
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	・学校行事への積極的な参加　・就職活動 ・危険物取扱者（乙4）合格　・JAMCA全国統一模擬試験の好成績				
□ 思考・判断の観点	1．自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	1．自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	1．受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	入学式		テルサホール
第2回	ビジネスとコミュニケーションの基本		キャリアサポート室
第3回	ビジネスとコミュニケーションの基本		キャリアサポート室
第4回	ビジネスとコミュニケーションの基本		キャリアサポート室
第5回	スズキフレッシュマンセミナー	新人研修	スズキ自販
第6回	ビジネスとコミュニケーションの基本		キャリアサポート室
第7回	体育大会	サッカー，玉入れ，綱引き，リレー	山城総合運動公園競技場
第8回	ビジネスとコミュニケーションの基本		キャリアサポート室
第9回	ビジネスとコミュニケーションの基本		キャリアサポート室
第10回	仕事の実践とビジネスツール		
第11回	夏休み企業訪問セミナー	訪問時の所作指導，身だしなみ（服装，頭髪）チェック	
第12回	危険物（乙4）模擬試験	危険物取扱者（乙4）模擬試験と解説	
第13回	危険物（乙4）模擬試験	危険物取扱者（乙4）模擬試験と解説	
第14回	消防訓練	梅小路公園への消防避難訓練	
第15回	ほりかわ祭	学祭（イベントや模擬店など）	
第16回	ほりかわ祭	学祭（イベントや模擬店など）	
第17回	スズキ就活セミナー	スズキCS基礎講習会（お客様対応や仕事の基本）	
単位認定　総合成績60点　出	国内研修	調整中	
第19回	安全運転啓発セミナー	技術アジャスターによる安全運転啓蒙講座	
第20回	仕事の実践とビジネスツール		キャリアサポート室
第21回	合同企業説明会事前セミナー	ブースへの入り方，書類の手渡し方など	
第22回	合同企業説明会		テルサホール
第23回	仕事の実践とビジネスツール		キャリアサポート室
第24回	仕事の実践とビジネスツール		キャリアサポート室
第25回	JAMCA模擬試験	3級ガソリン，3級ジーゼル，3級シャシ模擬試験と解説	
第26回	JAMCA模擬試験	3級ガソリン，3級ジーゼル，3級シャシ模擬試験と解説	
第27回	JAMCA模擬試験	3級ガソリン，3級ジーゼル，3級シャシ模擬試験と解説	
第28回	JAMCA模擬試験	3級ガソリン，3級ジーゼル，3級シャシ模擬試験と解説	
第29回	JAMCA模擬試験	3級ガソリン，3級ジーゼル，3級シャシ模擬試験と解説	
第30回	JAMCA模擬試験	3級ガソリン，3級ジーゼル，3級シャシ模擬試験と解説	

成績評価方法

出席率90%以上　（行事への積極的な参加，模擬試験，各種研修レポートで評価）

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	各担当教員	実務経験紹介	

科目名	キャリアデザインⅡ	単位数	1	学科	国足自動車整備科
授業形態	講義・実習	対象学生	2年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	留学生に対する、社会生活における必要な日本語教育と、日本での生活及び将来設計についてや、ビジネス能力の向上が図れる学びを提供する。				
授業の一般目標	日本語での会話、基本的なコミュニケーションなど留学生として身に付けておくべきことを学ぶ。 社会人、職業人として適応するためにみにつけておくべきことを学ぶ。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）					

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1. 留学生に期待される社会人、職業人を目指せるようになる。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

社会人　職業人に必要な常識や所作、言葉使いを学ぶ。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	ビジネスとコミュニケーションの基本	ビジネス所作、自己紹介文書化	
第2回	ビジネスとコミュニケーションの基本	漢字テスト　N2レベル	
第3回	ビジネスとコミュニケーションの基本	求人票の内容説明　どんな会社に行きたいか。	
第4回	ビジネスとコミュニケーションの基本	留学生のためのキャリアワークブック①	
第5回	ビジネスとコミュニケーションの基本	留学生のためのキャリアワークブック②	
第6回	ビジネスとコミュニケーションの基本	自分史をつくる	
第7回	ビジネスとコミュニケーションの基本	自分史を語る　自動車関係語彙テスト	
第8回	ビジネスとコミュニケーションの基本	交通に関する語彙　履歴書の書き方	
第9回	ビジネスとコミュニケーションの基本	家族、親戚関係の語彙　自己PRについて	
第10回	ビジネスとコミュニケーションの基本	学校に関する語彙　自己PR確認、作成	
第11回	ビジネスとコミュニケーションの基本	自己PR発表	
第12回	ビジネスとコミュニケーションの基本	漢字テスト　死ぬまでにしたいことについて	
第13回	ビジネスとコミュニケーションの基本	カタカナについて　死ぬまでにしたいこと	
第14回	ビジネスとコミュニケーションの基本	夏の企業説明会について　挨拶練習	
第15回	ビジネスとコミュニケーションの基本	就職ガイダンス　所作、服装、身だしなみ点検	
第16回	ビジネスとコミュニケーションの基本	就職ガイダンス　所作、服装、身だしなみ点検	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト		○					評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	各担当教員	実務経験紹介	

科目名	キャリアデザインⅢ	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	経済環境の急速な変化のもと、職業教育・キャリア教育の必要性を理解させ、ビジネス能力を向上させる。				
授業の一般目標	職業観や勤労観と言った概念の形成を前提に、ビジネス常識・情報の活用などを身に付ける。				
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）					

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1期待される社会人・職業人としての人間力を身に付ける。
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	ビジネスとコミュニケーションの基本	キャリアと仕事へのアプローチ	
第2回		仕事の基本となる8つの意識	
第3回		コミュニケーションとビジネスマナーの基本	
第4回		指示の受け方と報告、連絡・相談	
第5回		話し方と聞き方のポイント	
第6回		来客応対と訪問の基本マナー	
第7回		会社関係での付き合い	
第8回		仕事の取り組み方	
第9回		ビジネス文章の基本	
第10回		電話応対	
第11回		データの読み方・まとめ方	
第12回		情報収集とメディアの活用	
第13回		会社を取り巻く環境と経済の基本	
第14回	ビジネスマナー	一般常識問題	
第15回		一般常識問題	
第16回		一般常識問題	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀（S）:100点～90点
小テスト							評価なし	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート						○	15	良（B）: 79点～70点
授業態度	◎		○				15	可（D）: 69点～60点
発表・作品			○	◎			定期試験に含む	不可（E）:59点以下
演習					◎		評価なし	
出席							欠格条件	

担当教員	各担当教員	実務経験紹介	

科目名	損害保険募集人	単位数	1	学科	国際自動車整備科
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	損害保険の募集に携わるため、保険契約者の利益を損なうことなく、適正な保険募集を行うために必要な知識を十分身に着ける。 基礎単位 ： 損害保険の基礎や募集コンプライアンスなど損害保険の募集のための基礎的な知識の習得 自動車単位 ： 自動車保険の仕組みや契約条件、管理、周辺知識の習得				
授業の一般目標	損害保険募集人資格 基礎単位と自動車単位の取得				
受講条件	出席率90％以上				
事前学習について （テキスト・参考書等）	損害保険募集人一般試験 教育テキスト 【基礎単位】及び【自動車単位】				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	損害保険の募集に関する知識を身に付け、顧客ニーズに応じたわかりやすい説明が行えるようになる。				
☐ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備 考
第1回	基礎単位 第1編 損害保険の基礎知識	第1章 リスクと保険 第2章 損害保険の社会的役割	
第2回	基礎単位 第1編 損害保険の基礎知識	第3章 保険の仕組み 第4章 損害保険商品	
第3回	基礎単位 第2編 保険募集の基本ルール	第1章 コンプライアンス 第2章 保険業法 第3章 関連法令・ルール	
第4回	基礎単位 第3編 保険募集の基本と心構え	第1章 保険契約の引受け 第2章 保険料・保険契約の管理	
第5回	基礎単位 第3編 保険募集の基本と心構え	第3章 事故・苦情への対応 第4章 保険募集人の心構え	
第6回	基礎単位 第4編 損害保険に周辺知識	第1章 損害賠償 第2章 社会保険	
第7回	基礎単位 第4編 損害保険に周辺知識	第3章 災害時の公的支援制度 第4章 税務・相続 第5章 隣接業界	
第8回	自動車単位 第1編 商品の仕組み	第1章 リスクと保険	
第9回	自動車単位 第1編 商品の仕組み	第2章 自動車保険の補償内容 第3章 自賠責保険	
第10回	自動車単位 第2編 契約条件の確認	第1章 自動車保険の契約条件・保険料率 第2章 被保険者 第3章 被保険自動車	
第11回	自動車単位 第2編 契約条件の確認	第4章 保険金額 第5章 ノンフリート等級別料率 第6章 保険期間・保険料支払い方法	
第12回	自動車単位 第3編 契約引受け・契約管理	第1章 自動車保険の引き受け 第2章 保険契約の管理 第3章 自動車保険の事故対応	
第13回	自動車単位 第3編 契約引受け・契約管理	第4章 自動車保険の苦情対応 第5章 事故の防止と防犯	
第14回	自動車単位 第4編 周辺知識	第1章 損害賠償に関する基礎知識 第2章 関係法令	
第15回	模擬試験	模擬試験 基礎単位 模擬試験 自動車単位	
第16回	本試験	基礎単位 自動車単位	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀（S）：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優（A）：89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良（B）：79点～70点
授業態度			○	◎			15	可（D）：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	古瀬・住本	実務経験紹介	

科目名	企業研究	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	自動車整備企業関連などについて調べる。インターンシップの事前学習も行う。				
授業の一般目標	自動車整備業界を調べる事によって業界内の様々な職種を知る。また、そこで求められる人物像、知識などを各自が明確にイメージすることによって学習意欲を高める。				
受講条件	出席率90%以上が前提となる。				
事前学習について （テキスト・参考書等）	就活ナビノート				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1．自動車整備業界とは何かについて説明できる。　2．自動車整備業界の各領域の概要と課題を説明できる。				
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた自動車整備関連企業ついて自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	自動車整備業界に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	日常生活の中で自動車整備業界界について主体的に考えることができる				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し応用に発展する

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ガイダンス	美容業界の関連企業はどのようなものがあるか理解する	
第2回	業界企業の特徴①	上場、未上場、親会社が他業種などブライダル企業の現在を知る	
第3回	企業の特徴②	グループワークでブライダル企業を調べる	
第4回	業界調査　発表	前回調べた企業を発表する	
第5回	企業研究①	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー	
第6回	企業研究②	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー	
第7回	企業研究③	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー	
第8回	企業研究④	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー	
第9回	企業研究⑤	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー	
第10回	企業研究⑥	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー	
第11回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて	
第12回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて	
第13回	インターンシップ先の企業研究	インターンシップ先の企業研究	
第14回	インターンシップ先の企業研究	インターンシップ先の企業研究	
第15回	まとめとインターンに向けての心構え	これまでのまとめとその業界に求められる人物像などについてディスカッションを行う	
第16回	まとめとインターンに向けての心構え	インターシップの事前学習、お礼状や履歴書の準備など	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	○			40	B(2):70点以上
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上
発表・作品		○	○				10	D:59点未満　未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	企業研修	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	内定者・新入社員向け研修。 社会人基礎力を学生の間に身に付け、就職してから即戦力となる人材を目指す				
授業の一般目標	社会人としての一般常識の習得。 円滑なコミュニケーションスキルを身に付け自ら考え行動できるようになる				
受講条件	出席率90%以上が前提となる				
事前学習について （テキスト・参考書等）					
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。　2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。				
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	ビジネスに関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し応用に発展する。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ビジネスマナー研修	ビジネスマナーとは	
第2回	敬語・ビジネス用語の使い方	ビジネス用語と敬語の使い方について	
第3回	ビジネス基礎研修	学生から社会人絵の意識と行動改革	
第4回	ビジネス文章研修	ビジネス文章作成の基本	
第5回	ビジネスメール研修	メールの構造・作成のポイント、注意点	
第6回	ロジカルシンキング研修	論理的であることの定義、情報を整理し、結論を導く	
第7回	コミュニケーション研修	ホウ・レン・ソウの重要性と目的	
第8回	電話対応研修	電話対応における心構えと基本スキル	
第9回	仕事の進め方研修	チームワークとコミュニケーション	
第10回	対人関係構築研修	対人関係に役立つテクニック	
第11回	メンタルヘルス研修	ストレスへの対処法	
第12回	企画力アップ研修	発想の出し方・企画書作成について	
第13回	プレゼンテーション研修	伝える技術を身に付ける	
第14回	プレゼンテーション研修	プレゼンテーションの実践	
第15回	プレゼンテーション研修	プレゼンテーションの実践	
第16回	期末テスト	期末テスト	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良（B）: 79点～70点
授業態度			○				10	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	ビジネス能力	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接遇マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。				
授業の一般目標	サービス接遇検定3級合格				
受講条件	特になし				
事前学習について （テキスト・参考書等）	サービス接遇検定　受験ガイド3級　改訂版、サービス接遇検定　問題集				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. サービス接遇とは何かについて、接客業を上手く熟すための課題が説明ができる。				
☐ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域についての内容を、活用することができる。				
☐ 関心・意欲の観点	1. サービス接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	1. ペット業界（接客業）の中で、サービス接遇の必要性を考えることができる。				
☐ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し、自動車整備業界（他分野職含む）へ就職した時、顧客に対して実践ができる。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	授業開始について サービス接遇接客とは何か	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える 効果的な自己紹介の仕方ができる	
第2回	サービススタッフの資質（1）	必要とされる要件 明るさと誠実さ・適切な判断と表現・身だしなみについてを覚える	
第3回	サービススタッフの資質（2）	従業要件 良識をもつ、適切な判断と表現、清潔感についてを覚える	
第4回	専門知識（1）	サービス知識 サービスの意義・機能・種類を覚える	
第5回	専門知識（2）	従業知識 商業用語・経済用語を覚える	
第6回	一般知識	社会常識を覚える、時事問題を知る	
第7回	対人技能（1）	一般的な人間関係を築く	
第8回	対人技能（2）	接遇知識、対人心理が理解できる 接遇者としてマナーを心得る	
第9回	対人技能（3）	話し方、接遇用語を覚える 提示・説明の仕方を覚える	
第10回	対人技能（4）	服装 接遇者としての適切な服装を装う	
第11回	実務技能（1）	問題処理。環境整備についてを覚える	
第12回	実務技能（2）	金品管理・社交儀礼の業務ができる	
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習	試験範囲説明
第14回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習	試験範囲説明
第15回	振り返り授業・試験実施	サービス接遇検定合格のポイント、受験	単位認定試験
第16回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説	試験解説

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 （S）：100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 （A）：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 （B）：79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 （D）：69点～60点
発表・作品							－	不可（E）:59点以下
演習							－	
出席			○				10	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	ビジネス文章力	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	２年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	美しい字を書く。ビジネス文書に関わる知識・技術を実際に活用できる。手紙・はがきを書くルールやマナーを活用する。 社会人として必要なビジネス文書のマナーとルールを活用して社会生活を送る。				
授業の一般目標	日常的に美しい字を書けるようになる。 ビジネスで必要とされる漢字が書ける。 ビジネス検定2級合格。 社会に通用する手紙・はがきが書けるようになり、実際に送る				
受講条件	特になし				
事前学習について （テキスト・参考書等）	ビジネス文書検定受験ガイド1・2級				

授業の到達目標（トウタツ モクヒョウ）

☐ 知識・理解の観点	１．ビジネス文書の基本を学び、必要な文書作成の説明できる。
☐ 思考・判断の観点	１．正しい用字、用語やルール、マナーを述べることができる。
☐ 関心・意欲の観点	１．ビジネス文章検定に合格し、必要な文書作成を行うことができる
☐ 態度の観点	
☐ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

社会人として必要なビジネス文章のマナーとルールを学び、ビジネス検定２級合格を目指す

授業計画（授業単位）

回	主　題	授　業　内　容	備考
第1回	授業開始について ビジネス文書の必要性を知る	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ビジネス文書の必要性を知り、人に伝える事ができる ビジネス文書検定の詳細を知り受験までの計画を立てる	
第2回	ビジネス文書が作成できる（1）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く ビジネス文書の書式を知り活用できる	
第3回	ビジネス文書が作成できる（2）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く ビジネス文書の書式を知り活用できる	
第4回	ビジネス文書が作成できる（3）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く ビジネス文書の書式を知り活用できる	
第5回	ビジネス文書が作成できる（4）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 正確で分かりやすい文章が書ける	
第6回	ビジネス文書が作成できる（5）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 正確で分かりやすい文章が書ける	
第7回	ビジネス文書が作成できる（6）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 正確で分かりやすい文章が書ける	
第8回	ビジネス文書が作成できる（7）	正しい用字・用語を適切に答える事ができる ビジネス文書にふさわしい文字を書く 社内文書や社外文書が書けるようになる・取り扱いのルールを覚える	
第9回	模擬テスト	ビジネス文書検定模擬テスト実施 解答・解説をしてテスト前の総復習	
第10回	郵便物のルール 電子媒体のビジネス文書	郵便物のルールを知り活用する 電子媒体のビジネス文書のルールとマナーを活用する	
第11回	暑中見舞いを作成する	学習した知識を活用して暑中見舞いを実際に作成して郵送する	
第12回	お礼状を作成する（1）	学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る①	
第13回	お礼状を作成する（2）	学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る②	試験範囲説明
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験	単位認定試験
第15回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験	単位認定試験
第16回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説	試験解説

成績評価方法

単位認定　総合成績６０点、出席率９０％以上
成績点７０％、提出物＆授業態度点２０％、出席点１０％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀　（Ｓ）：100点～90点
小テスト							－	優　（A）：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良　（Ｂ）：79点～70点
授業態度			○	◎			20	可　（Ｄ）：69点～60点
発表・作品							－	不可（Ｅ）:59点以下
演習							－	
出席			○				10	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	コンピュータ	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	① WindowsとWord2007の基本操作について ② Wordの機能についての理解と利用 ③ Excelの基本的な操作方法や表の作成・編集 ④ 関数についての理解とグラフの作成 ⑤ 文書校正機能やワークシートの操作について				
授業の一般目標	Windows、Word・Excdelの基礎を学び、文書や表などを作成・編集できるようにする。 機能について理解をし、活用できるようにする。 必要な式の作成、考え方を学び、適切な式を入力できるようする。				
受講条件	出席率90％以上が前提となる				
事前学習について （テキスト・参考書等）					
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。　2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。				
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し応用に発展する。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	授業のオリエンテーション	授業に関する説明と注意事項、アンケート 課題提出用メールアドレスの取得とWindowsの基礎とついて	
第2回	授業の準備とWordの基礎	課題提出用メールアドレスの取得（欠席者と未取得者） Wordの画面の名称と機能	
第3回	Wordの基本	漢字の変換・文節、読みのわからない漢字の挿入方法 ビジネス文書の構成について	
第4回	ページと書式の設定	ページ設定と書式設定	
第5回	行・段落の設定	段落番号・行間・インデントなどの設定	
第6回	表とヘッダー・フッター	表の挿入・編集とヘッダーフッターの設定	
第7回	オブジェクトの挿入・編集	ワードアートや図形、 図やテキストボックスに対する操作	
第8回	Word総合問題	Ｐ検３級Word実技問題に順守した問題	
第9回	Excelの基礎	画面の名称や働き、演算子やオートフィル機能について	
第10回	Excelの基本	コピー・移動、関数について（合計を求める）	
第11回	オートSUMボタンを利用した関数	平均、最大・最小値の求め方と表の書式設定。 オートSUMボタンでの設定方法	
第12回	絶対参照と関数の利用	相対参照と絶対参照について 関数の挿入ボタンを利用した関数の入力（セルの個数）	
第13回	グラフの作成と編集	グラフの挿入とグラフの書式設定	
第14回	ページ設定とデータベース機能	ページ設定と表示モードの変更、文書校正について データの並べ替え	
第15回	ページ設定とデータベース機能	ページ設定と表示モードの変更、文書校正について データの並べ替え	
第16回	ワークシートの操作と総合問題	ワークシートに関する設定とＰ検３級に遵守した Excelの総合問題	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良（B）: 79点～70点
授業態度			○				10	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	プレゼンテーション	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	「仕事の実践」の知識を活かしながら、プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、プレゼンテーションの基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかり相手に伝える積極的な意思表現ができるようになる。				
授業の一般目標	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。 プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。				
受講条件	出席率90％以上が前提となる				
事前学習について （テキスト・参考書等）	YIC京都オリジナルテキスト				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。　　2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。				
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。				
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。				
☐ 技能・表現の観点	自ら考えたサロンのプレゼンテーションができるようになる				
授業計画（全体）					
基本的な知識を修得し応用に発展する。					
授業計画（授業単位）					

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業のルール・プレゼンテーションとは	
第2回	プレゼンテーションの目的	プレゼンテーションの種類・目的の明確化・情報収集の重要性	
第3回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や主張の明確化、プラン作成やツールについて	
第4回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ	小テスト
第5回	ストーリーの構成	序論・本論・結論について	
第6回	説得力のある伝え方	SDS法・PREP法・DESC法について	
第7回	自己紹介文作成	SDS法・PREP法・DESC法を用いた自己PR文の作成・発表	
第8回	感動を創造する伝え方	感情を込めた伝え方・感動エピソード発表	小テスト
第9回	プレゼンテーション	テーマに沿ってプレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする	
第10回	事業計画書の作成①	サロンコンセプト・ターゲット層・メニューの作成	
第11回	事業計画書の作成②	チラシ・プレゼン資料作成	
第12回	プレゼンテーション準備	最終準備・発表練習	
第13回	プレゼンテーション準備	最終準備・発表練習	
第14回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション（テスト）	プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする	
第15回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション（テスト）	プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする	
第16回	期末試験	筆記テスト	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良（B）: 79点～70点
授業態度			○				10	可（D）: 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	論理的思考力	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	日常生活に関する題材を取り上げ、現状認識、問題発見をつかさどる把握力、定量分析、定性分析に発展させる分析力、意思決定、情報を研ぎ澄ませる選択力、シュミレーション能力を磨くための予測力、プレゼンテーション能力を発揮できる表現力の基礎を学ぶ。				
授業の一般目標	身近な問題を解くことを通して、読解力・把握力・分析力・選択力・予測力・表現力を養う。				
受講条件	出席率90%以上が前提となる				
事前学習について （テキスト・参考書等）					
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。　2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。				
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し応用に発展する。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション・数学基礎学力テスト	授業の進め方・評価の方法について 数学基礎力試験（数学検定試験）	
第2回	速さの基礎	速さの定義・秒速・分速・時速・速さと距離時間の関係の復習。速さを求める。	
第3回	旅人算・流水算	動くものが2つあるとき、2つのものの隔たりの推移に関する問題を解く。	
第4回	割合の基礎	単位の換算・百分率と歩合・濃度の計算（重量パーセントからモル濃度）	
第5回	損益算	売買による損益に関する計算。原価（仕入れ値）・定価・売価（売り値）・利益の間の関係、特に利益率・値引率の割合の意味を理解し問題を解く。	
第6回	仕事算	単位日数や単位時間にできる仕事の量や仕上げるのにかかる日数や時間を求める。	
第7回	計算の基礎・虫食い算	四則計算・四則混合計算・Xを使う式・連立方程式を解く	
第8回	順列・確立	順列・確立の基本的な考え方と保険・銀行の融資（ゆうし）・株式市場の分散投資について学ぶ	
第9回	集合	集合と要素・部分集合・空集合・関集合・和集合・全体集合・補集合について学ぶ。	
第10回	推理	リーグ戦の勝敗・対応関係・うそつき問題を解く	
第11回	面積・体積	平行四辺形の面積・三角形の面積・台形の面積・ひし形の面積・円の面積・柱体の体積・錐体の体積を求める	
第12回	展開図	直方体・立方体・その他の図形の展開図から、体積・表面積を求める	
第13回	把握力と分析力	業界シェアの動向・所得税を求める	
第14回	選択力と予測力	最適な通勤ルートはどれか・来月の売上予想はいくらか求める。	
第15回	表現力	売上高を棒グラフで表す・データ分布のヒストグラムは	
第16回	試験		

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優（A）: 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良（B）: 79点～70点
授業態度			○				10	可（D）: 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）:59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	イベントプロジュースⅠ	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義・実習	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。				
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。				
受講条件	特になし				
事前学習について （テキスト・参考書等）					
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	ベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる				
□ 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる				
□ 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める				
□ 態度の観点					
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身に着ける事ができる

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	授業ガイダンス	2020年度のイベントについて	
第2回	イベントとは?	イベントの意義について	
第3回	イベントの目的	イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える	
第4回	プランニングと運営について	プランニング（計画生）の重要性と運営について覚える	
第5回	イベント企画会議	実際の行事のの企画会議を実施する。（ほりかわ祭）	
第6回	イベント運営のグループワーク	イベント運営とグループワーク（ほりかわ祭）	
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション	運営シュミレーション（ほりかわ祭）	
第8回	イベント運営の実際	ほりかわ祭について（1）	
第9回	イベントプロデュースの分析と展望	ほりかわ祭について（2）	
第10回	イベント企画会議	実際の行事のの企画会議を実施する。（就職egg）	
第11回	イベント運営のグループワーク	イベント運営とグループワーク(就職egg)	
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション	運営シュミレーション(就職egg)を行う	
第13回	イベント運営の実際		
第14回	イベントプロデュースの分析と展望		
第15回	イベントプロデュースの分析と展望		
第16回	まとめ	まとめ	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							－	秀 （S）：100点～90点
小テスト							－	優 （A）：89点～80点
宿題授業外レポート							－	良 （B）：79点～70点
授業態度	○		○	◎			30	可 （D）：69点～60点
発表・作品	○	◎	○		◎		40	不可（E）:59点以下
演習							－	
出席			◎	◎			30	

担当教員	担任	実務経験紹介	

科目名	イベントプロジュースⅡ	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義・実習	対象学生	1年生	開設期	半期
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。				
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。				
受講条件	特になし				
事前学習について （テキスト・参考書等）					
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	ベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる				
□ 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる				
□ 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める				
□ 態度の観点					
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身に着ける事ができる

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	授業ガイダンス	2020年度のイベントについて	
第2回	イベントとは?	イベントの意義について	
第3回	イベントの目的	イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える	
第4回	プランニングと運営について	プランニング（計画生）の重要性と運営について覚える	
第5回	イベント企画会議	実際の行事のの企画会議を実施する。（ほりかわ祭）	
第6回	イベント運営のグループワーク	イベント運営とグループワーク（ほりかわ祭）	
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション	運営シュミレーション（ほりかわ祭）	
第8回	イベント運営の実際	ほりかわ祭について（1）	
第9回	イベントプロデュースの分析と展望	ほりかわ祭について（2）	
第10回	イベント企画会議	実際の行事のの企画会議を実施する。（就職egg）	
第11回	イベント運営のグループワーク	イベント運営とグループワーク(就職egg)	
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション	運営シュミレーション(就職egg)を行う	
第13回	イベント運営の実際		
第14回	イベントプロデュースの分析と展望		
第15回	イベントプロデュースの分析と展望		
第16回	まとめ	まとめ	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90%以上
成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							－	秀 （S）：100点～90点
小テスト							－	優 （A）：89点～80点
宿題授業外レポート							－	良 （B）：79点～70点
授業態度	○		○	◎			30	可 （D）：69点～60点
発表・作品	○	◎	○		◎		40	不可（E）:59点以下
演習							－	
出席			◎	◎			30	

担当教員	担任	実務経験紹介	

科目名	ボランティア活動Ⅰ	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	ボランティアの理念，目的，意義，現状や問題点を講義する．ボランティアの理念，目的，意義，現状や問題点を学習した後に，学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する．				
授業の一般目標	ボランティアの理念を説明できる．ボランティア活動の基本原則を説明できる．実際のボランティア活動を説明できる．ボランティア活動参加の意義を説明できる．ボランティア活動に参加する。				
受講条件	出席率90％以上が前提となる				
事前学習について （テキスト・参考書等）					
授業の到達目標					
□ 知識・理解の観点	1．学んだ事を説明できる。　2．学んだ領域の概要と課題を説明できる。				
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。				
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。				
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。				
□ 技能・表現の観点					

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し応用に発展する。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ボランティアの理念	（無償性，自主性，公益性）	
第2回	ボランティア活動の基本原則	自分からすすんで行動する―ともに支え合い一学び合う「見返りを求めないよりよい社会をつくるを学ぶ	
第3回	実際のボランティア活動	実際のボランティア活動について話し合う	
第4回	ボランティア参加の意義	ボランティア活動は、他人同士がいろいろな場でふれあい、つながりを持ち、お互いに学びあって生きる喜びを確かめ合う機会を与えるものであることを確認する	
第5回	自分にあったボランティア活動は?	自分にあったボランティア活動について考察する。	
第6回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第7回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第8回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第9回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第10回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第11回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第12回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第13回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第14回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第15回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第16回	振り返り	レポート作成	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					20	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			30	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満　未修得
演習					◎		50	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

科目名	ボランティア活動Ⅱ	単位数	1	科目コード	
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	－
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	ボランティアの理念，目的，意義，現状や問題点を講義する．ボランティアの理念，目的，意義，現状や問題点を学習した後に，学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する．				
授業の一般目標	ボランティアの理念を説明できる．ボランティア活動の基本原則を説明できる．実際のボランティア活動を説明できる．ボランティア活動参加の意義を説明できる．ボランティア活動に参加する。				
受講条件	出席率90％以上が前提となる				
事前学習について （テキスト・参考書等）					

授業の到達目標

□ 知識・理解の観点	1．学んだ事を説明できる。　2．学んだ領域の概要と課題を説明できる。
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ，問題意識を高めることができる。
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。
□ 技能・表現の観点	

授業計画（全体）

基本的な知識を修得し応用に発展する。

授業計画（授業単位）

回	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ボランティアの理念	（無償性，自主性，公益性）	
第2回	ボランティア活動の基本原則	自分からすすんで行動する―ともに支え合い一学び合う「見返りを求めないよりよい社会をつくるを学ぶ	
第3回	実際のボランティア活動	実際のボランティア活動について話し合う	
第4回	ボランティア参加の意義	ボランティア活動は、他人同士がいろいろな場でふれあい、つながりを持ち、お互いに学びあって生きる喜びを確かめ合う機会を与えるものであることを確認する	
第5回	自分にあったボランティア活動は?	自分にあったボランティア活動について考察する。	
第6回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第7回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第8回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第9回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第10回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第11回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第12回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第13回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第14回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第15回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加	
第16回	振り返り	レポート作成	

成績評価方法

単位認定　総合成績60点、出席率90％以上
成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					20	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			30	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満　未修得
演習					◎		50	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	

2021 国際自動車整備科 シラバス

発 行 YIC京都ペット総合専門学校

発行日 2021 年 4 月 1 日

編 集 学校法人京都中央学院

〒600-8236 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地

TEL 075-371-4044 FAX 075-343-3821

本便覧の複写および無断転載を禁ずる。